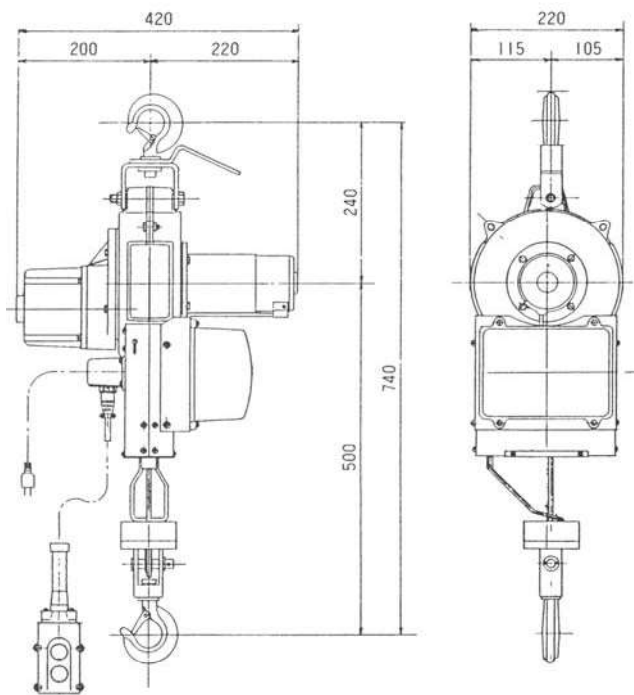


# 【ベビーホイスト】 (30m揚程 BH-830180kg吊り)

## 軽さと安全性が好評



### ■用途

従来の“使い易く安全性の高いベビーホイスト(BH)”を、さらにパワーアップし、ユーザー層を広げた小型軽量ホイストです。これによって、BHシリーズのフルライン化に前進しました。左官工事、ALC工事、塗装工事、仮設材の組立解体、工事設備などに活躍を約束します。

型式		BH-830	
主仕様	電源	AC100V, 1Φ、50/60Hz	
	吊り荷重	180kg	
	巻上速度	12m/min	
	揚程	30m	
	モーター	出力	580W
		定格電流	9.5A(AC)
		電源	DC100V
自重	19kg		
附属品	ワイヤーロープ	6Φ×31m	
	吊り金具	スイベルフック1コ	
	電源コード	2mm×3芯×5m(アース用3Pプラグ付)	
	操作コード	1.25mm×3芯×30m	
	操作スイッチ付	COB-61	

### ■特長

#### 過荷重防止クラッチ

巻上げ中、ドラム回転がロックされる様な衝撃荷重が加わった場合、機械的な滑りクラッチ機構が働き、本体を保護します。

#### 過巻リミット

巻上げの際、操作スイッチを切らずに、上限で自動的に停止し、ワイヤの切断、荷の落下、故障などを防ぎます。

#### 逆巻防止リミット

ワイヤがたるみ、ドラム上でのごず巻きや、使用始めの逆巻きが発生するとリミットが働き自動的に停止します。

#### 荷揺れ防止

ワイヤの出口にガイドローラーを付け、荷重方向のワイヤの追随性を良くし、ワイヤー式ホイストに多い、荷の横揺れを防ぎます。

#### ブレーキ装置

当社の特許である“メカニカルブレーキ”を採用し巻上、巻下時のモーターの発電制動の併用で、スイッチを切ると同時に停止します。

#### 支持用フック

上部フックは一点吊りで、全方向に可動できます。また、取付や運搬が用意な把手付きです。

#### 軽量

小型軽量アルミフレームの使用で、自重がわずか19kgです。巻上能力の高さに対し、可搬性が高い製品を実現しました。

#### 低騒音

ヘリカルギヤ使用により、機械効率が良く騒音がほとんどありません。

#### 横行装置の取付

プレイントロリー、ギヤートロリーにも簡単に取付けることができます。

【サンリフト】 (SL-240型・500型・150型)



サンリフトSL-500A型

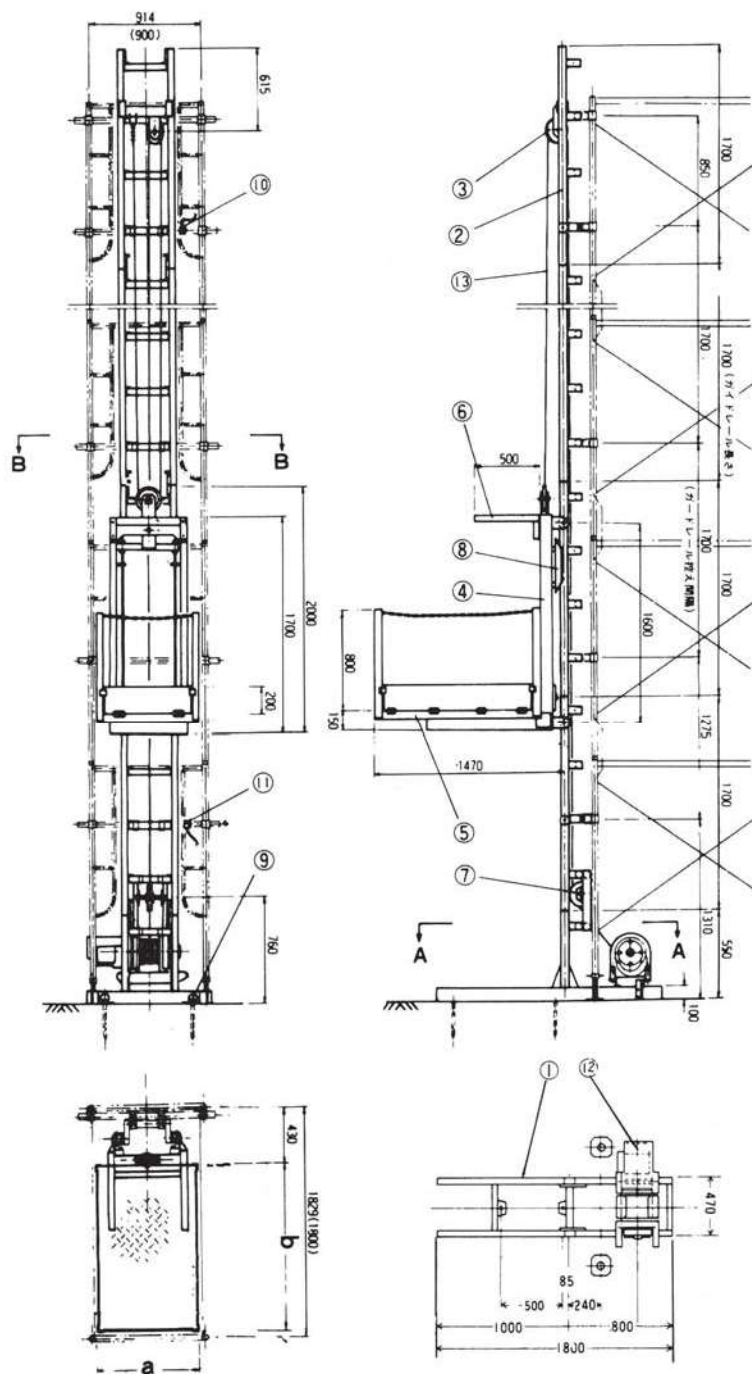
# SL-500型

## — 特 長 —

- 900mm幅の枠組足場内の設置が可能で、単独でも設置することができます。
- 工事の進行に応じ、ワイヤーロープのかけ替えなしに、ガイドレールの継足、又は取りはずして揚程を変えることができます。
- ガイドレールが2本で1本溝リフトに比べて昇降及び荷の積卸時の荷台の横揺れが少なく安定しています。
- ワイヤーロープの切断等により荷台が落下した場合は落下防止装置が作動し、荷台は停止します。
- ガイドレールのジョイントがクサビ式であるため、経済性・作業性に富んでいます。

仕様	
積 載 荷 重	500kg
最 大 揚 程	50m
荷 台 広 さ	1.28×0.8m、1.5×1.2m
昇 降 速 度	15/18m/min
電 動 機	2.5KW
操 作 方 式	押しボタン式遠隔操作
ワイヤーロープ径	8Φmm
安 全 装 置	自動落下防止装置 過昇降停止リミット
電 源	200/220V 3相交流

No.	名 称
①	ベ ー ス
②	ガ イ ド レ ー ル
③	ヘ ッ ド シ ー プ
④	昇 降 フ レ ー ム
⑤	荷 台
⑥	荷 立 掛 け ア ー ム
⑦	移 動 シ ー プ
⑧	リミットスイッチ接触板
⑨	抗
⑩	過昇制限リミットスイッチ
⑪	過降制限リミットスイッチ
⑫	ウ イ ン チ
⑬	ワ イ ヤ ロ ー プ



B-B矢視図

荷台寸法 a×b

A-A矢視図

SL-500A型 0.8×1.28m

SL-500B型 1.5×1.2m



# SL-240型

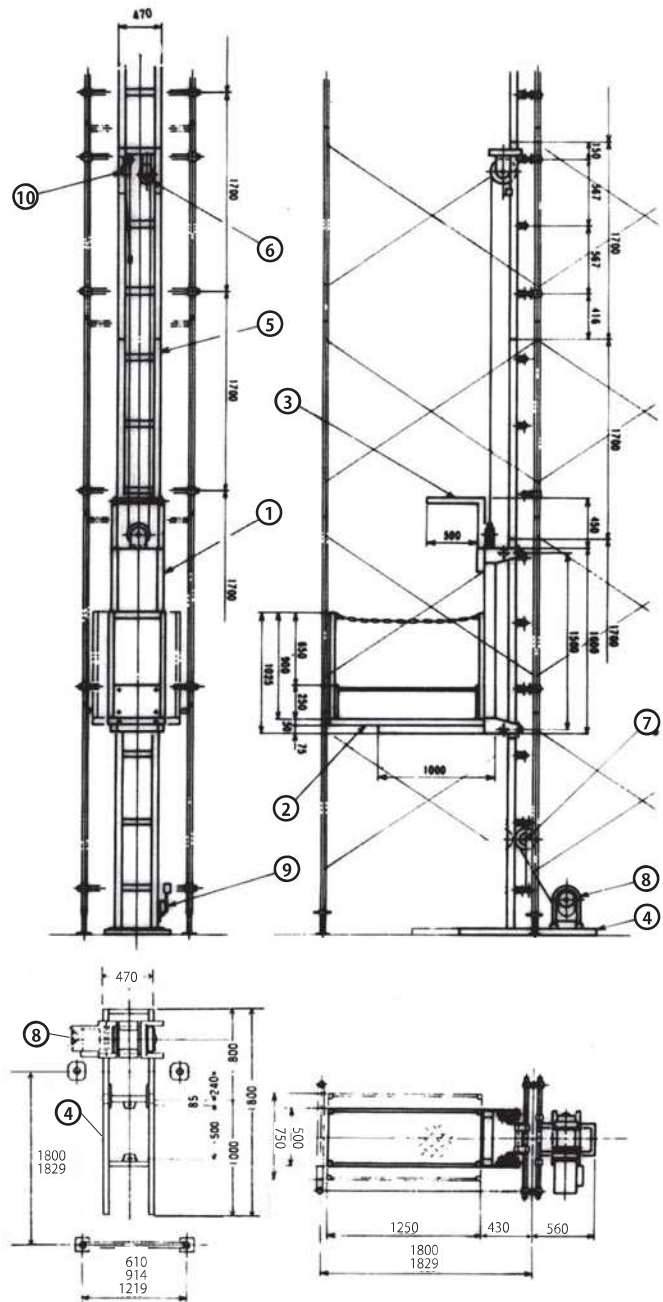
## — 特 長 —

- 荷台中の伸縮が可能であり、600mm巾～1200mm巾の枠組足場内に設置できます。
- 工事の進行に応じ、ワイヤーロープのかけ替えなしに、ガイドレールの継足、又は取りはずして揚程を変えることができます。
- ガイドレールが2本で1本溝リフトに比べて昇降及び荷の積卸時の荷台横振れが少なく安定しています。
- ワイヤーロープの切断等により荷台が落下した場合は落下防止装置が作動し、荷台は停止します。

仕様	
積 載 荷 重	240kg
荷 台 寸 法	1250×500～750MM
最 大 揚 程	25M
電 動 機	1.2kw プル250kg以上
速 度	15/18 M/min
ワイヤーロープ径	8Φ
操 作 方 法	押ボタン
安 全 装 置	上下限リミットスイッチ 落下防止安全装置
電 源	200/220V

No.	名称	品番
1	昇降フレーム	L-1001B
2	荷台	L-1002B
3	ヘッドガード	L-1003B
4	ベース	L-1004B
5	ガイドレール	L-1005B
6	ヘッドシーブ	L-1006B
7	移動シーブ	L-1007B
8	ウインチ	L-1008B
9	下限リミットスイッチ	L-1009B
10	上限リミットスイッチ	L-1000B

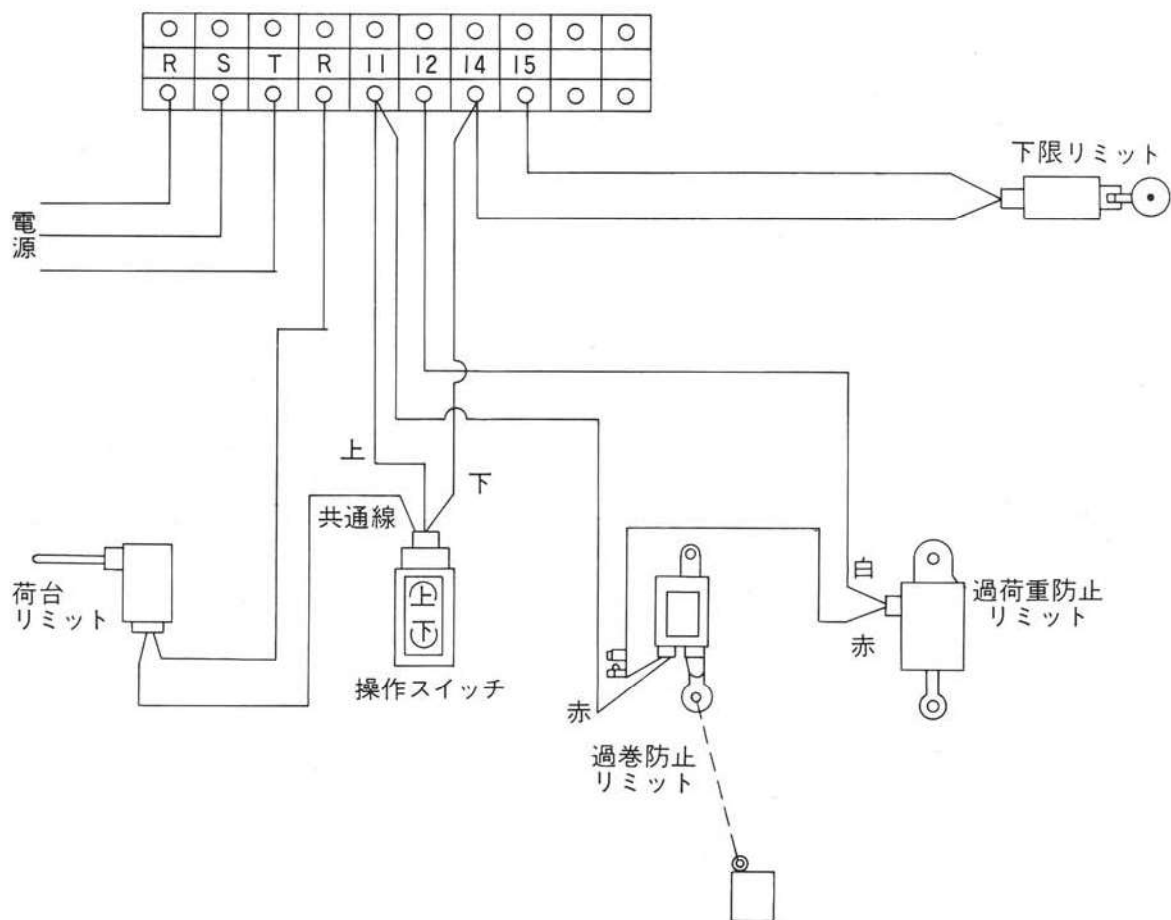
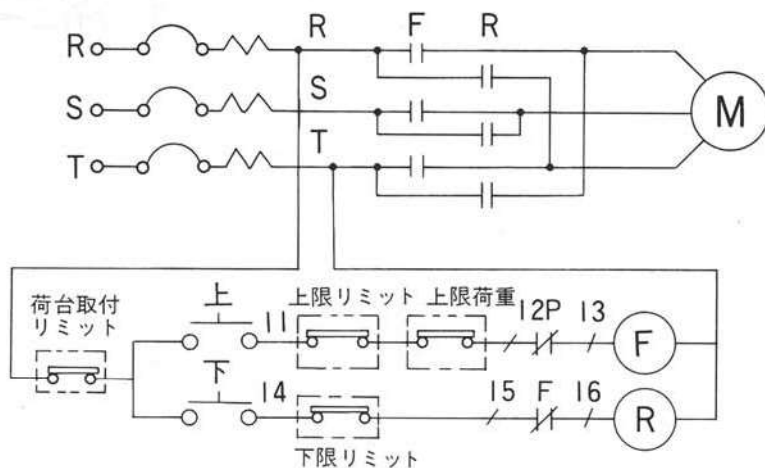
A-A矢視図



# SL-240型 (PWS-2.5型) 結線図

## SL-500型 (PWS-4.6型)

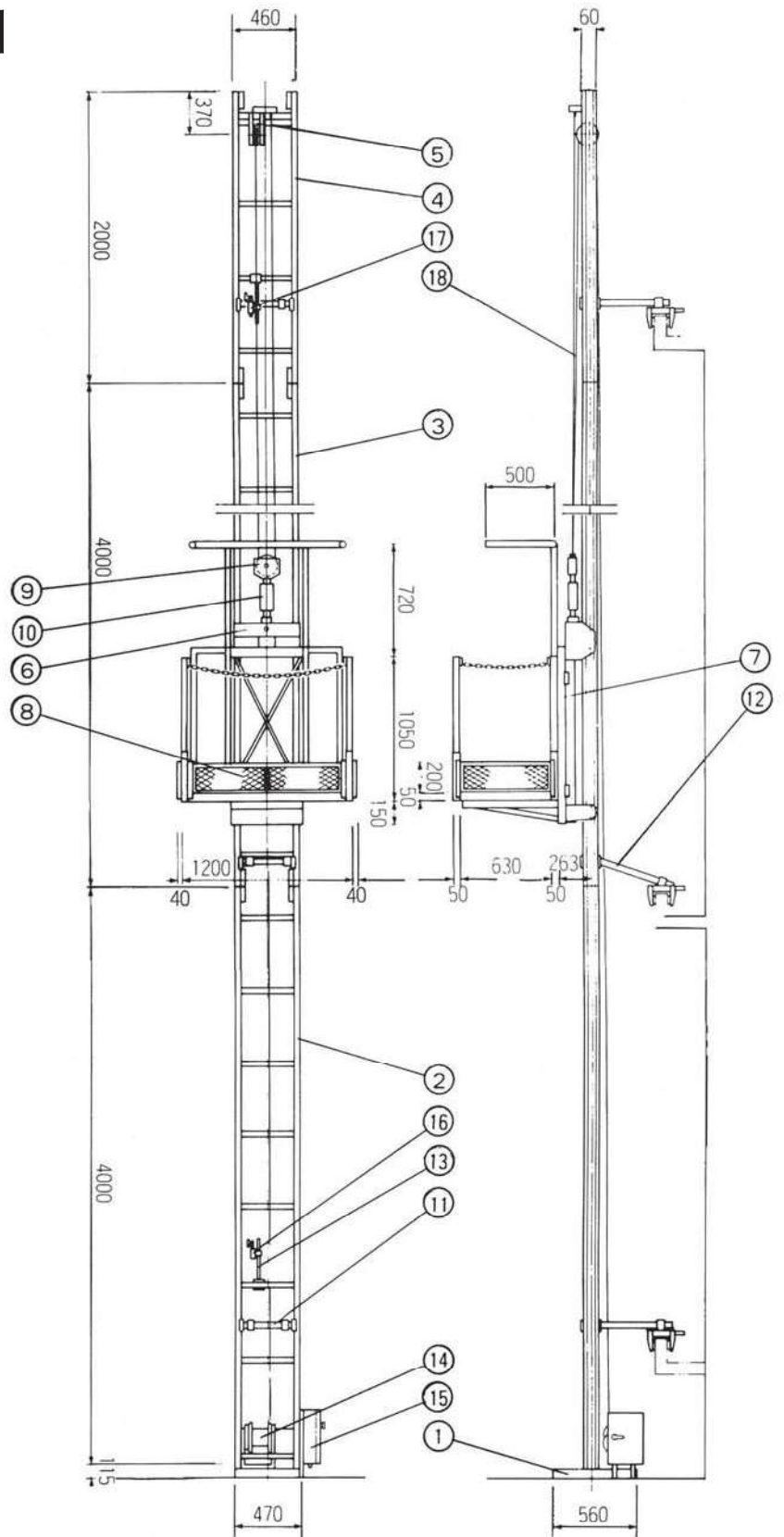
制御盤展開接続図



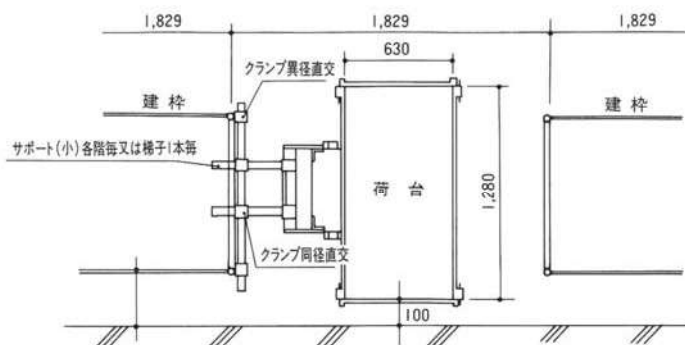
# SL-150型 全体組立図

仕様	
積 載 荷 重	150kg
最 大 揚 程	21M
荷 台 広 さ	1.2M×0.63M
昇 降 速 度	11.5M/MIN
操 作 方 式	押ボタン式遠隔操作
巻 上 電 動 機	650W
ワイヤーロープ径	6φ
安 全 装 置	過荷重防止リミット
	過昇防止リミットスイッチ
	過降防止リミットスイッチ
	落下防止装置
電 源	100V 単相交流

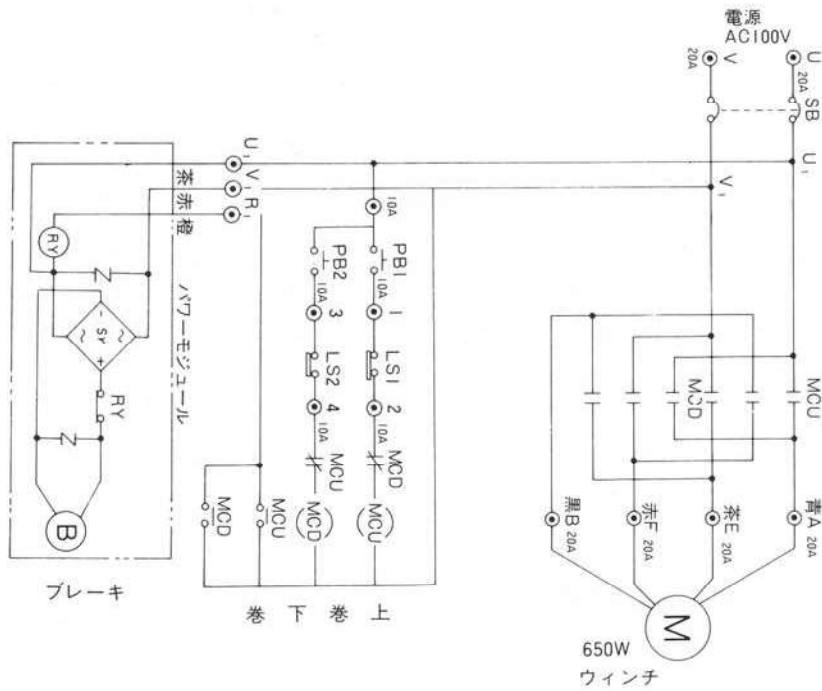
No.	名称
1	ベース
2	4M下部レール
3	4M中間レール
4	2Mレール
5	ヘッドフレーム
6	昇降フレーム
7	回転フレーム
8	荷台
9	吊上げシーブ
10	過荷重防止リミット
11	壁つなぎ中棧
12	壁つなぎパイプ
13	リミット取付スタンド
14	ウインチ
15	制御盤
16	下限リミットスイッチ
17	上限リミットスイッチ
18	ワイヤーロープ



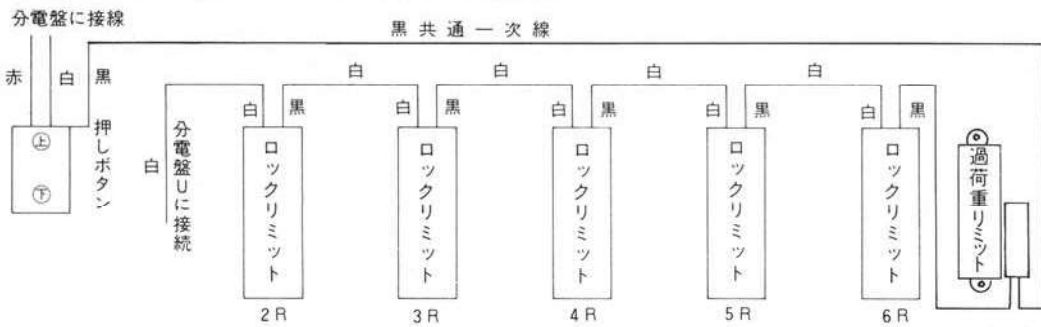
平面図



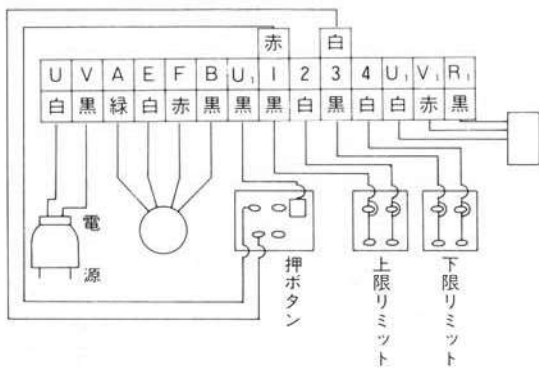
# SL-150型 結線図



サンリフトSL-150型ステージガードロックリミット配線図



サンリフトSL-150 分電盤配線図



サンリフトSL-150 モーター配線図



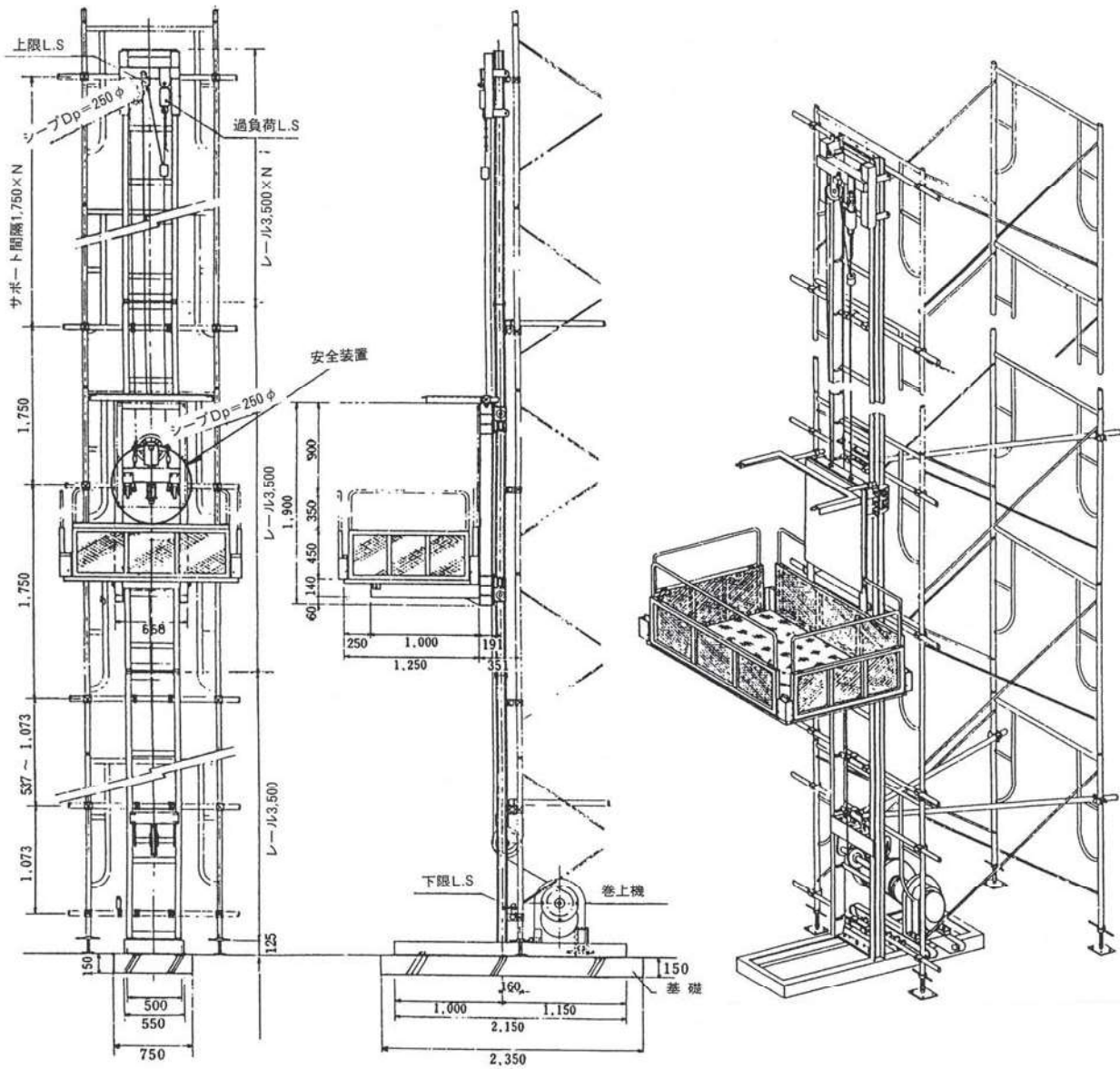
# 【スペースリフト】

SPL-1000

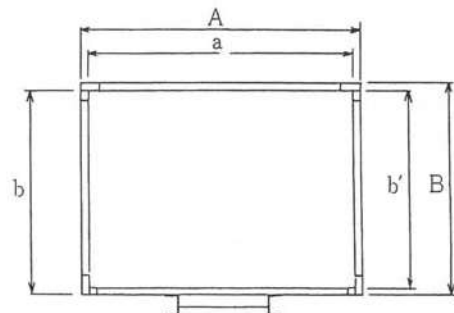
積載荷重……………1000kg

最大揚程…………… 60m

●主要寸法図 単位 m/φ



荷台寸法



●仕様

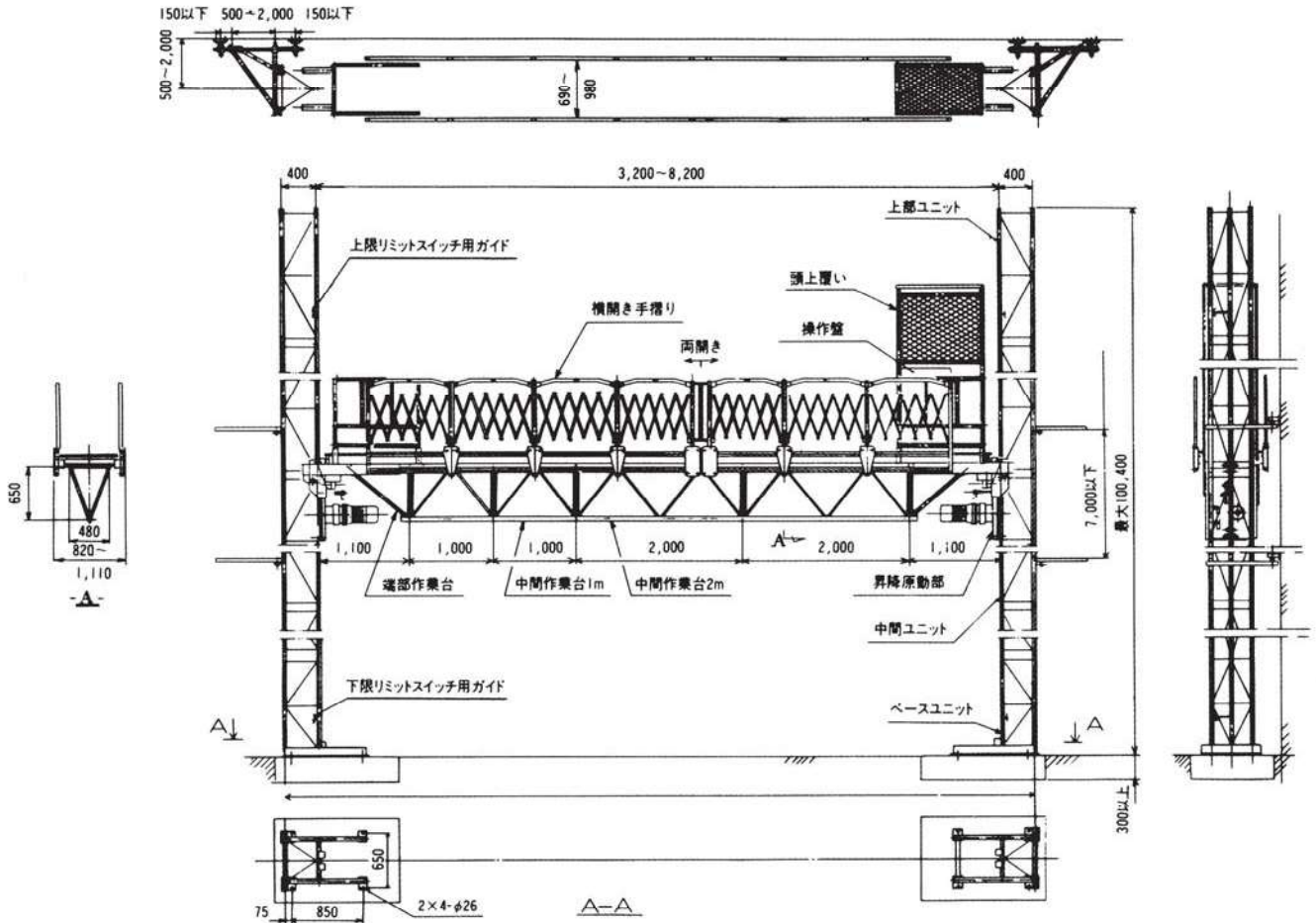
積載能力	1000kg	
巻上機	5.5~10kw(ローププル900kg以上)	
巻上速度	50Hz	15m/min~22m/min
	60Hz	18m/min~26m/min
鋼索系	12φ(JIS4号同等品)	
揚程	60m	
安全装置	過巻防止リミットスイッチ 下限リミットスイッチ 過負荷防止リミットスイッチ 落下防止装置	

型	荷台寸法 a×b	有効床幅 a×b'	全巾(手摺共) A×B	荷台重量 (手摺共)
1000B	2,500×1,250	2,500×1,200	2,590×1,290	294





# 【TRIAN エレベーター】(MLF900 型)



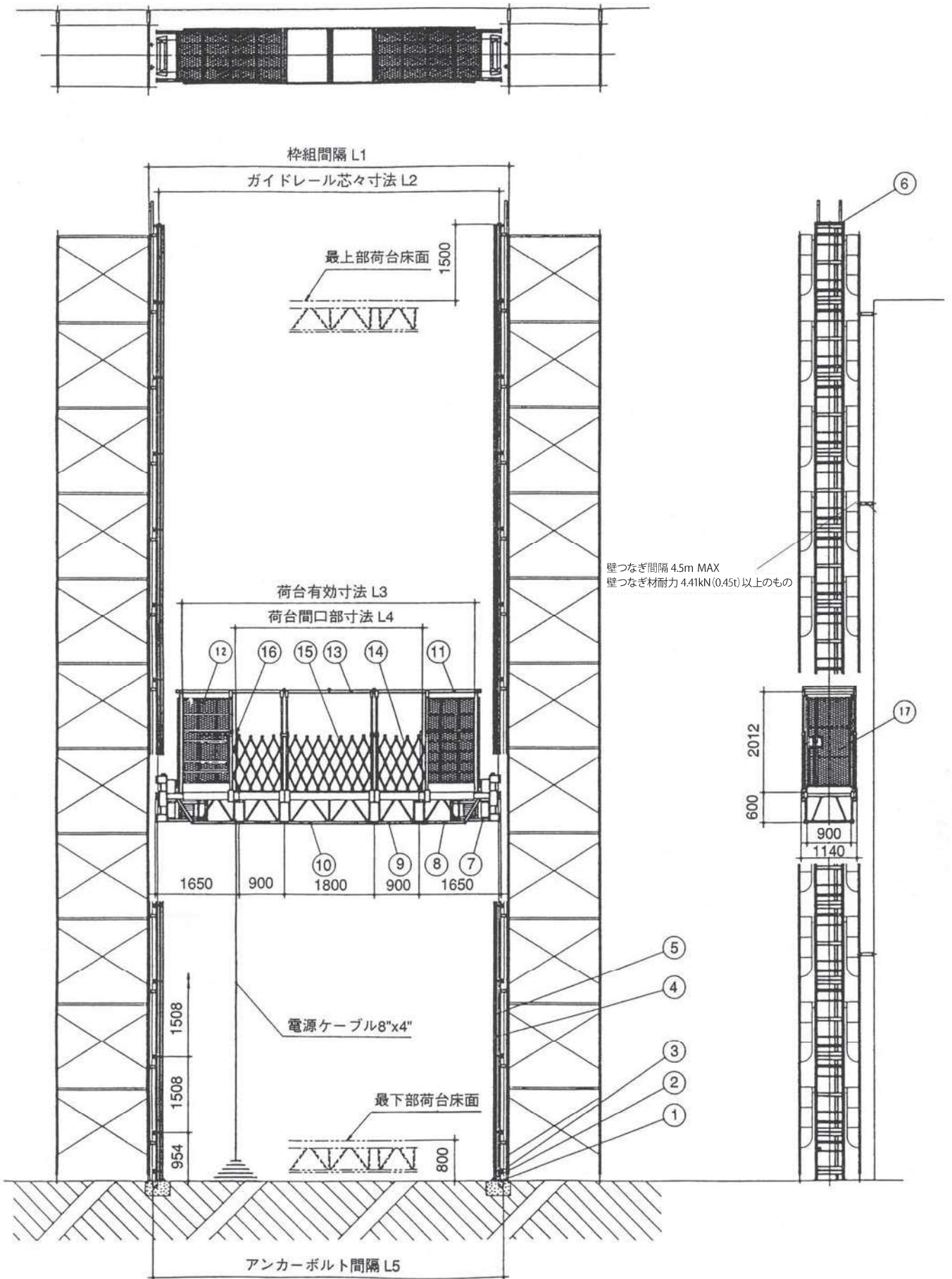
## 特長

- 脚柱は自立が可能。建造物の立ち上りより、たえず先行して使用出来る。  
(自立高さは作業台の床面で 3.5m 以下)
- 作業台の巾は広げて使用が可能。(820~1,100mm)
- 安全装置の作動や手摺りリミットスイッチのロック不良等による停止原因を表示するモニタランプ付。
- 枠組足場の巾以内に据付けが出来る。
- 作業台には両開き手摺りを取付け、開く位置は自由に設定出来る。
- 壁つなぎは、枠組足場より取ることが出来る。

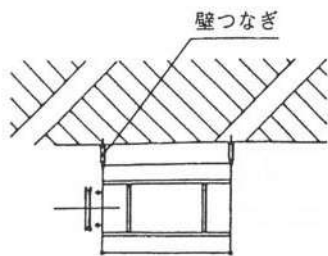
部品重量		
脚柱ベース	1基	59kg
脚柱ユニット	1本	34kg
昇降部	1台	190kg
端部作業台	1組	50kg
1m 作業台	1組	35kg
2m 作業台	1組	60kg
頭上覆い	1組	50kg
操作盤	1組	50kg
手摺り	1m	39kg

主要仕様	
型式	MLF-900型
積載荷重	900kg
脚柱間隔	3.2m~8.2m
作業台外巾	820mm~1,110mm
揚程	max 100m
電動機	2.2kw×4P×2台
電圧、周波数	200V/220V, 50Hz/60Hz
昇降速度	10m/min
壁つなぎ間隔	7m以内

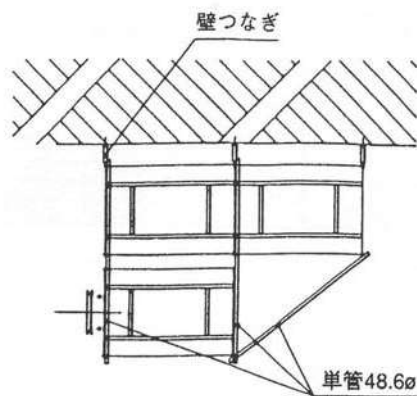
# 【ロングスパンエレベーター】(TPLE-900)



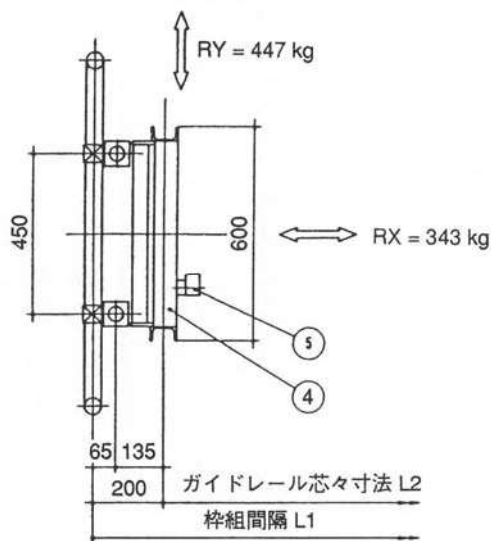




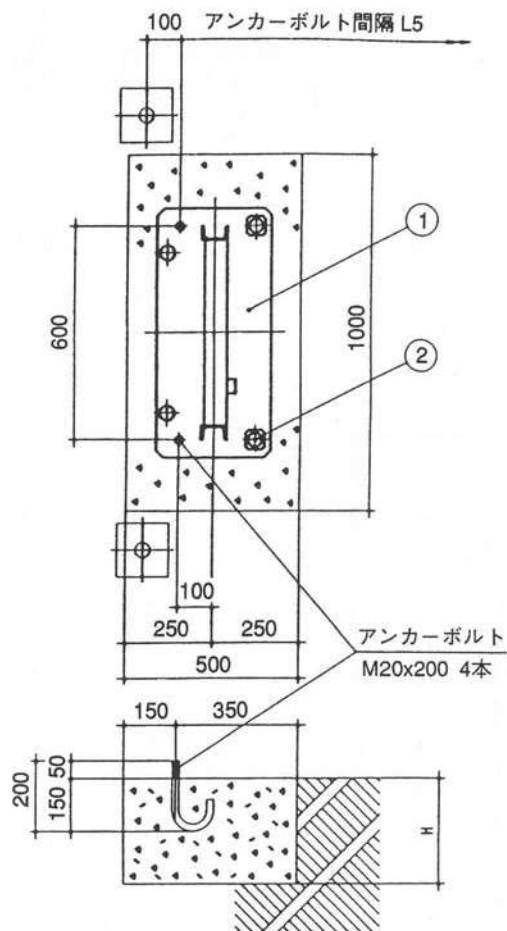
施工例1



施工例2



ガイドレールと枠組足場の取付



基礎図

枠組間隔 L1	5400	7200
ガイドレール芯々寸法 L2	5000	6800
荷台有効寸法 L3	4150	5950
荷台間口寸法 L4	1800	3600
アンカーボルト間隔 L5	5200	7000

組合せによる昇降荷台重量

型式	5.4	7.2
重量	1760kg	1960kg

型式及高さ別ベース荷重早見表

型式	5.4	7.2
高さ	880	980
10	1743	1843
15	1950	2050
20	2156	2256
25	2362	2463
30	2570	2670
35	2776	2876
40	2983	3082
45	3190	3290
50	3396	3496

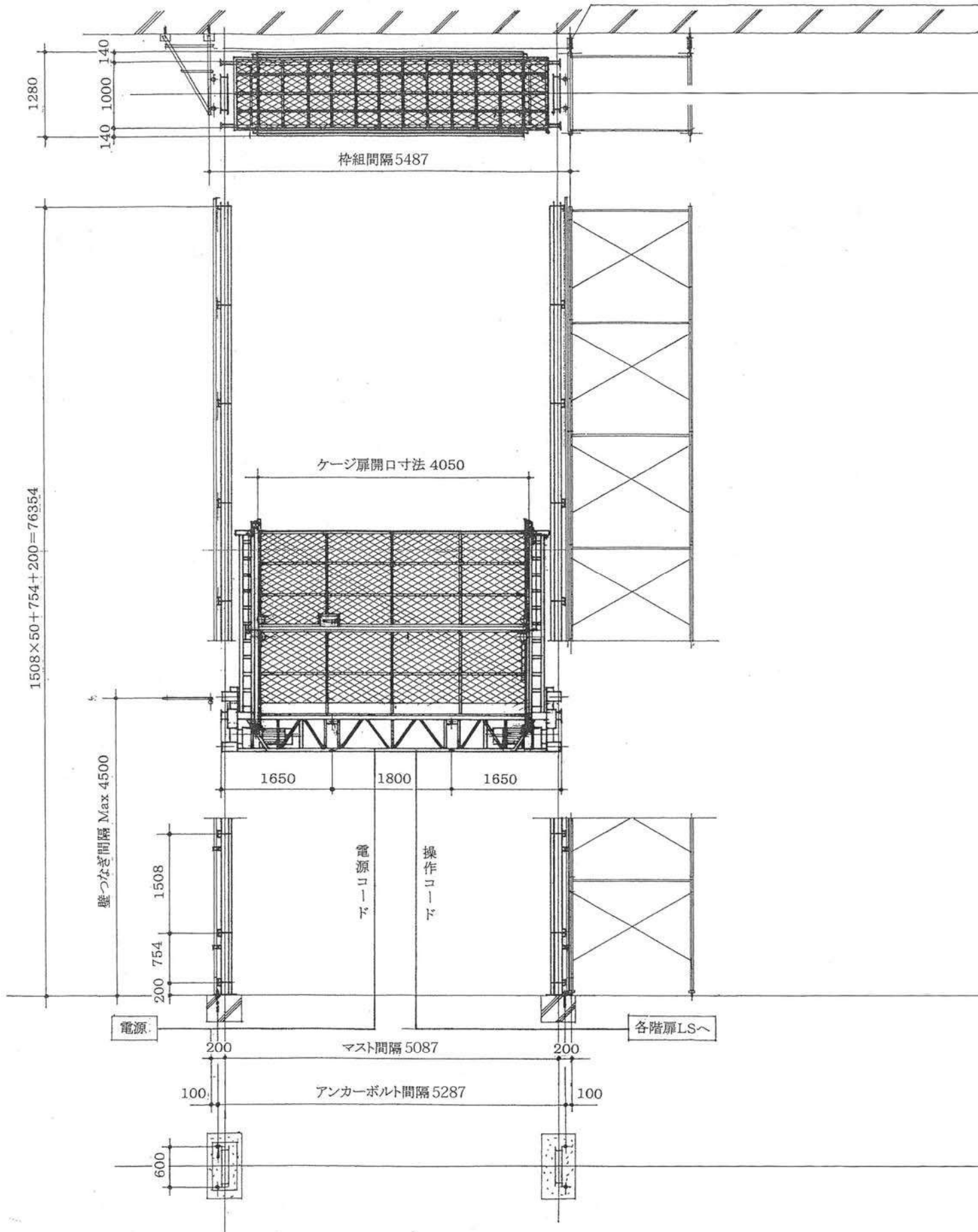
※ベース基礎深さHは上記表を参考の事

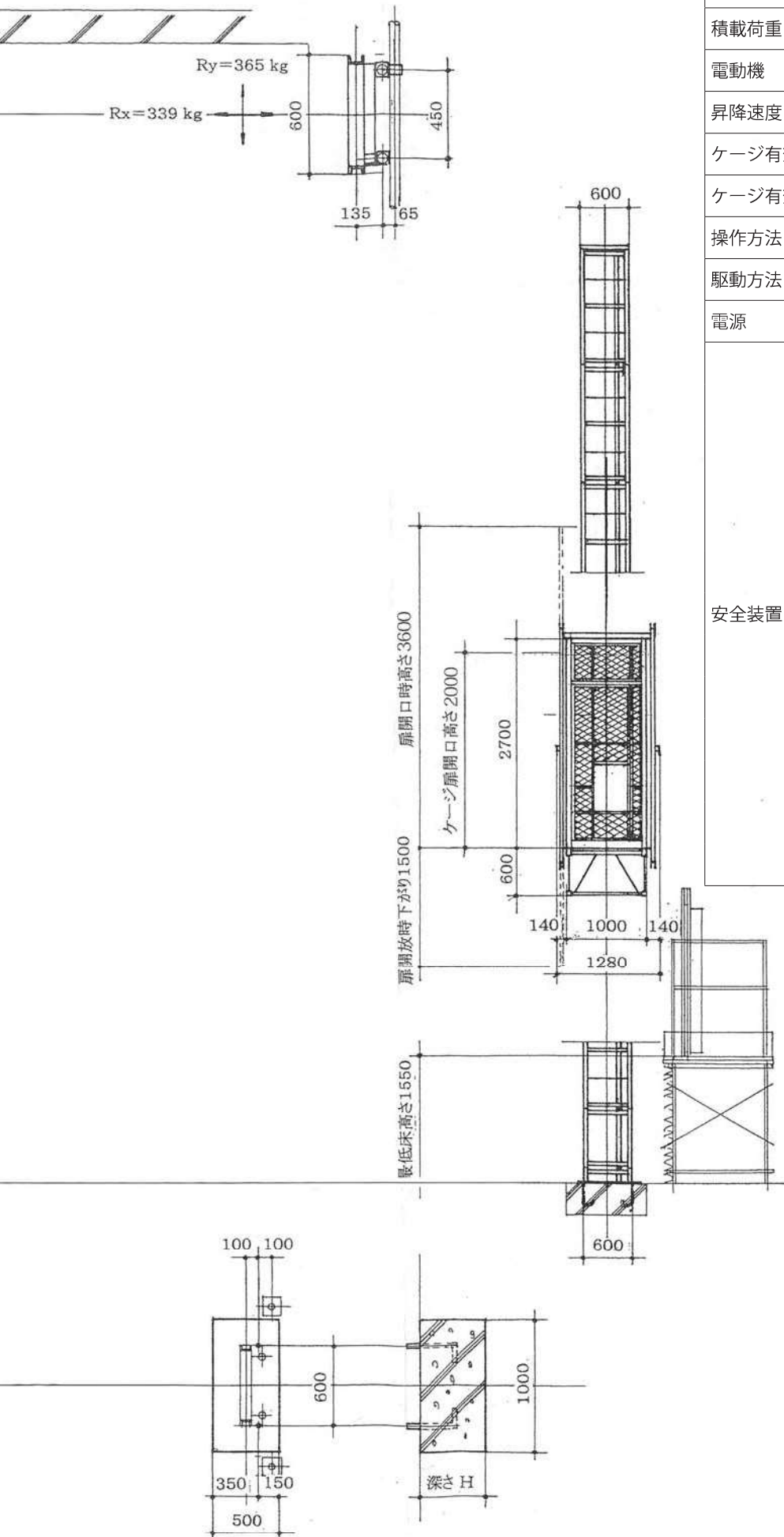
No.	名称	重量(kg)
1	ベース	25
2	バッファ	-
3	ベースマスト(ラック付)	35
4	マスト L=1508	38
5	ラック L=1508	24
6	過昇ストッパー	-
7	駆動部	380
8	サイドガータ	105
9	0.9ガータ	75
10	1.8ガータ	123
11	ヘッドガード支柱	40
12	ヘッドガード	58
13	中間ガイド(0.9m)	12
14	手摺りA	25
15	手摺りB	28
16	遮断設備	12
17	囲いパネル	22

仕様	
最大揚程	60m
積載荷重	8人又は900kg
昇降速度	10m/min
荷台有効面積	1m×5.95m
昇降方式	ラック&ピニオン
電動機	3.7kw×2台
操作方法	搬器取付ハンドル
電源	200/220V
安全装置	過負荷制限装置
	過昇降防止装置
	ガバナ式自動落下防止装置
	傾斜自動修正装置
	傾斜時停止装置
	下降時強制水平装置
	警報装置
	緩衝装置
各リミットスイッチ	



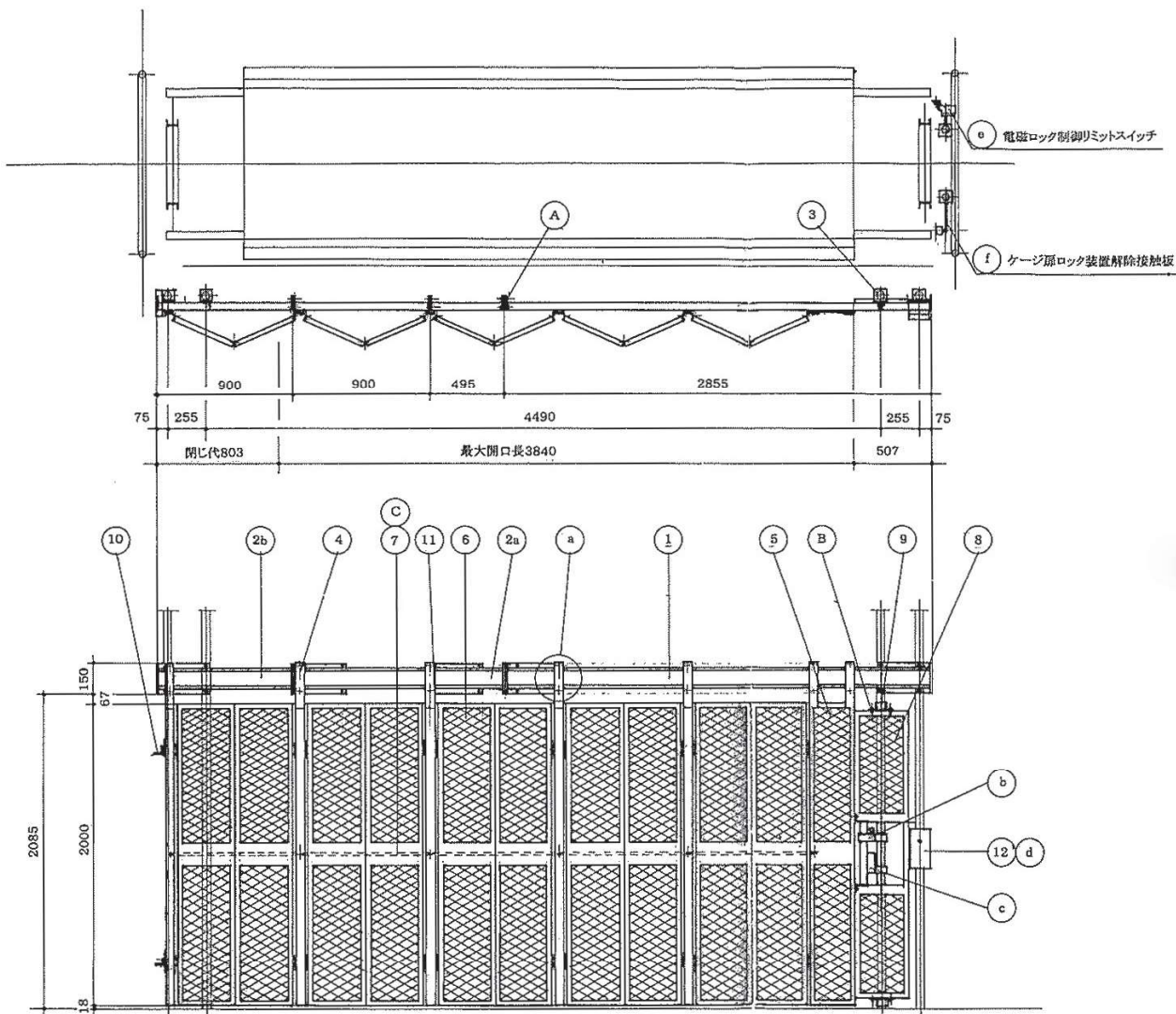
# 【工事用ロングエレベーター】 (TPEL-900D)





工事用ロングエレベーター TPEL-900D	
最高揚程	75M
積載荷重	900kg 又は 13 人
電動機	5.5kw × 2 台
昇降速度	17/20m/min 50/60HZ
ケージ有効寸法	0.9 × 4.05m
ケージ有効面積	3.6m <sup>2</sup>
操作方法	搬器取り付けレバースイッチ
駆動方法	ラック & ピニオン
電源	200/220V
安全装置	荷重測定表示装置
	過荷重制限停止装置
	扉電磁ロック及び自動キャッチ装置
	過昇防止停止装置
	上下制限リミットスイッチ
	ガバナ式落下防止装置
	傾斜時自動修正装置
	傾斜時自動停止装置
	最下降時自動水平装置
	昇降警報装置
非常停止装置	
各扉リミットスイッチ	
緩衝装置	

# 【工事用ロングエレベーター ステージドア】



No.	NAME	個数	
A	ボルト M16 × 40	12本	SW、N付き
B	ボルト M10 × 30	4本	SW、N付き
C	松葉ピン 10 (φ 1.8)	6本	
a	吊り部	7式	メッキ
b	リミットスイッチ	1式	
C	各階扉電磁ロック装置	1式	メッキ
d	各階扉電磁ロック盤	1式	
e	各階扉電磁ロック制御リミットスイッチ	1式	
f	ケージ扉ロック装置用接触板	1式	
12	電磁ロック盤取付板	1枚	メッキ
11	パネル取付ピン	32本	メッキ
10	ストッパー	2本	メッキ
9	取り付け金具	各1個	メッキ
8	端部パネル	1枚	メッキ
7	開き止め	5本	メッキ
6	扉パネル	10枚	メッキ
5	引き戸	1枚	メッキ
4	扉取付用柱	5式	メッキ
3	取付用単クランプ	8個	メッキ
2b	レール Bb (l = 900)	2本	メッキ
2a	レール Ba (l = 495)	1本	メッキ
1	レール A	1本	メッキ



## 【ステージガード】

# 作業の安全性、スピードアップ、墜落防止

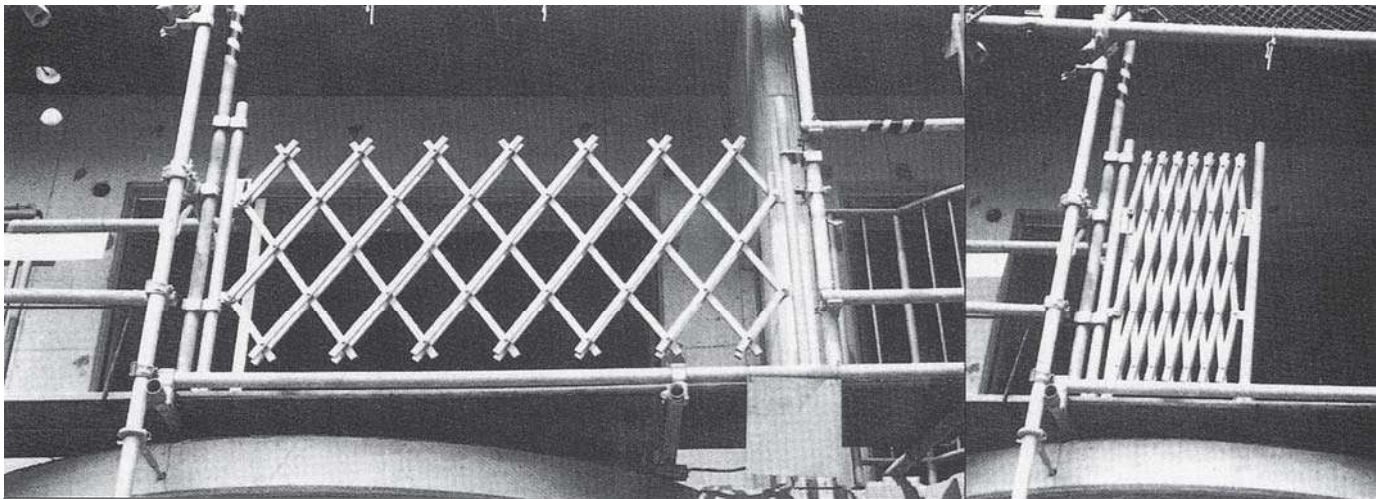
1. 組立て作業は不要です。完成品を開口部にクランプで取り付けるだけで、すぐに使用できます。
2. キャスター式ですので、頭上、足元ともに障害物なしの全面開口部確保できます。
3. 伸縮（アコーディオン）式ですので、開口部間口幅の設定に余裕があります。
4. コンパクトにたたんだ状態で運搬ができ、取付け、取外し、移設、倉庫管理等、取扱いが非常に容易です。
5. 操作が簡単で、墜落防止等の安全の確保や、現場環境のイメージアップに最適です。
6. 亜鉛処理鋼材を使用し、メッキ仕上げをしているため、錆に強く、外見が良く、整備が容易です。
7. キャスターの方向性能が安定しており、ワンタッチキャッチのロック装置（リミットスイッチ付）に容易にロックできます。

(注) キャスターの走行に支障がない程度の平坦な走行路 (5.4 型・3.6 型—足場板 1 枚程度) を御準備下さい。

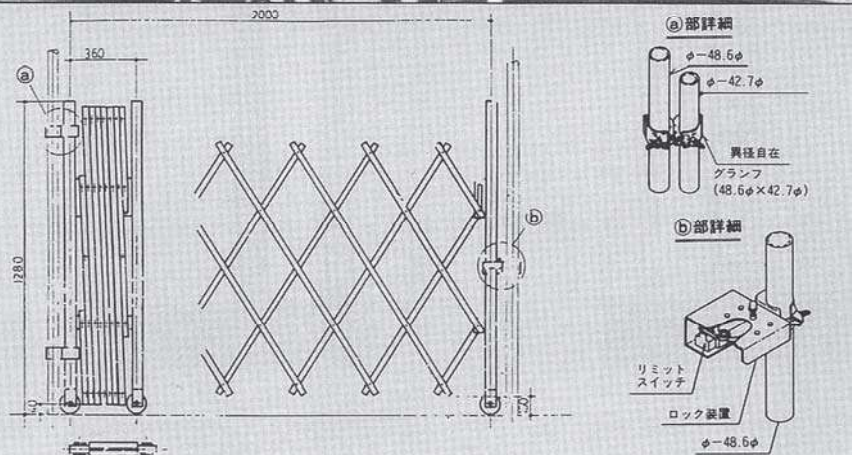
■寸法表（標準規格品）

(単位：m/m)

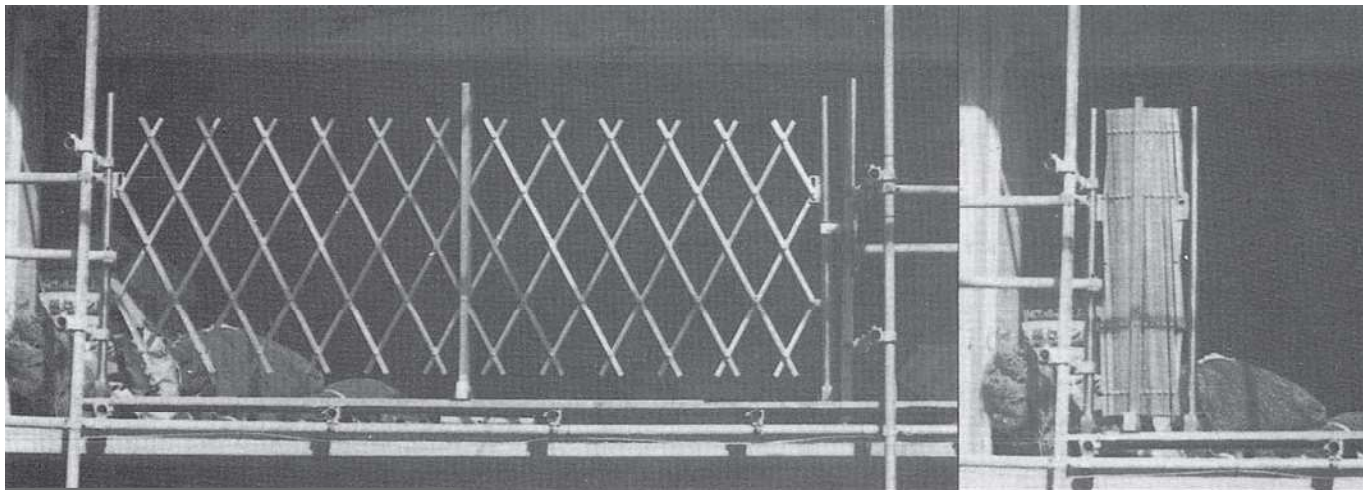
品名	シャダン開口(公称)	高さ(シャダン時)	タタミ幅	有効間口	キャスター幅	備考
S Gガード 2.0型	2,000	1,100	360	1,640	-	単キャスター
S Gガード 3.6型	3,600	1,100	480	3,120	140	中央部2連キャスター
S Gガード 5.4型	5,400	1,100	630	4,770	140	中央部2連キャスター



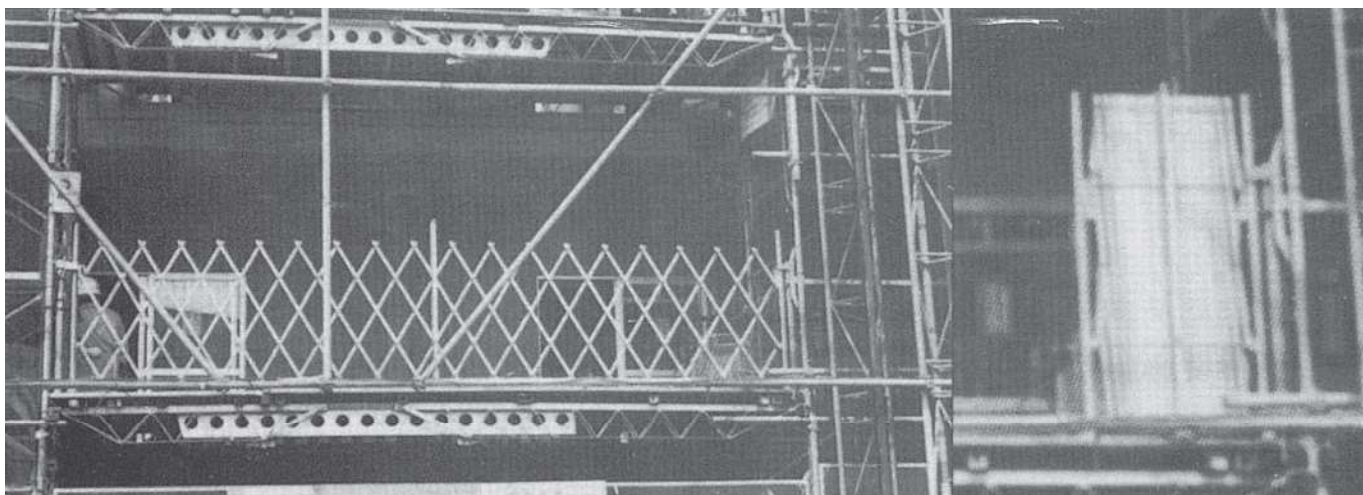
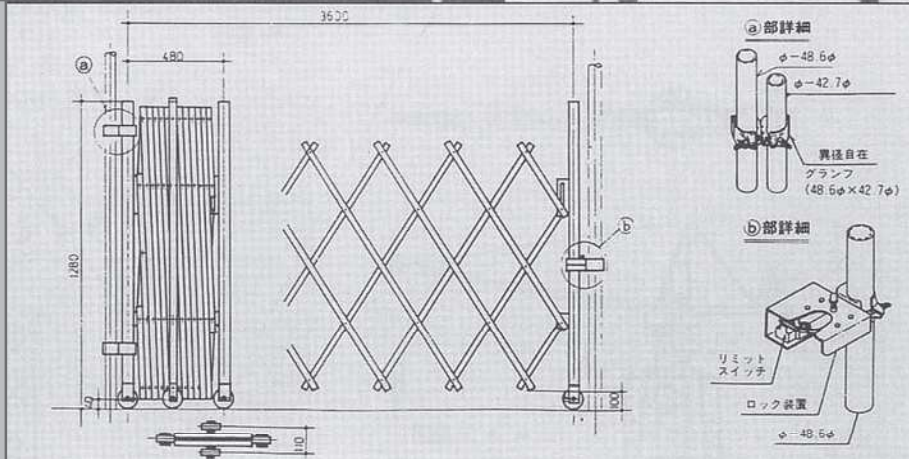
## 2.0型



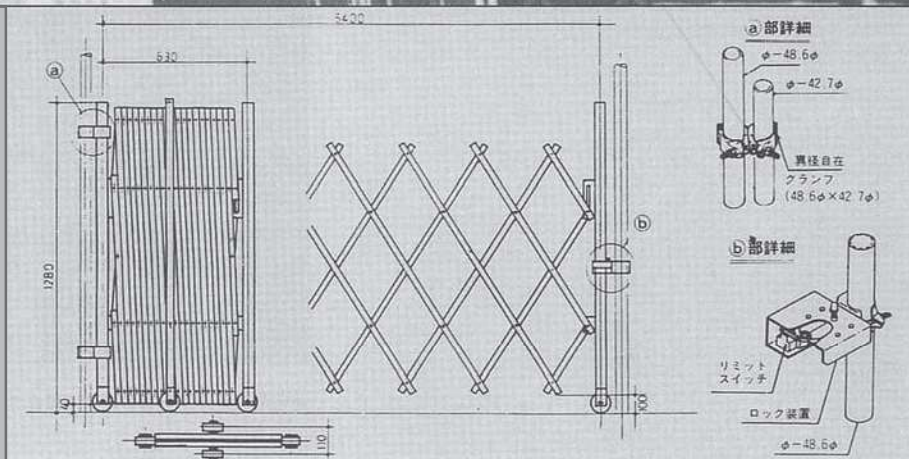




# 3.6 型



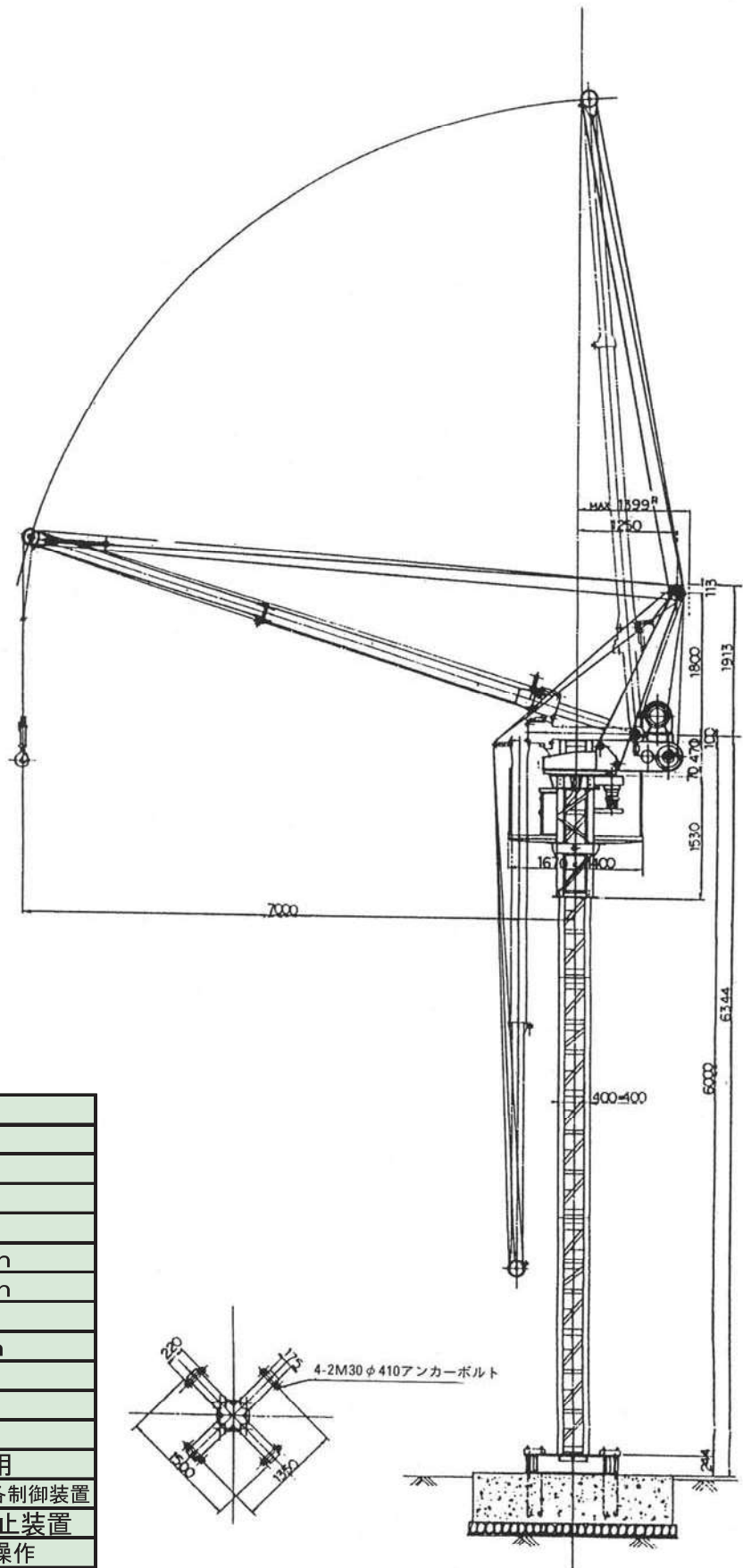
# 5.4 型



# 【LC-1000】

定格荷重…………… 1 t  
 作業半径…………… 7m  
 最大揚程……………40m

●主要寸法図 単位 m/φ



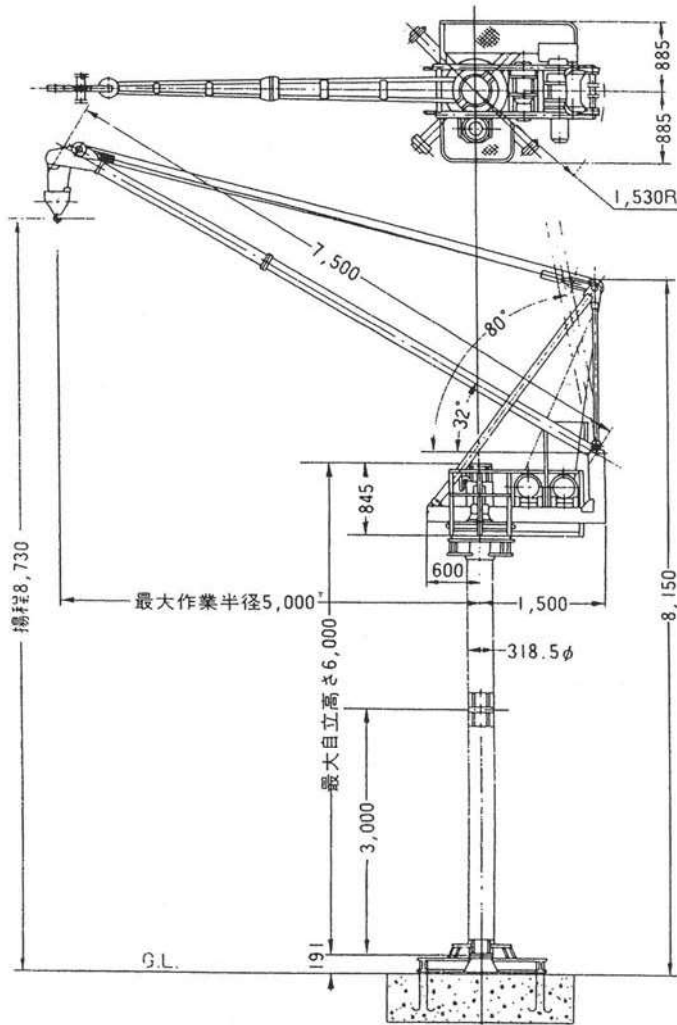
## ●仕様

型式	LC-1000-7	
定格荷重	1000kg	
旋回半径	7.0m	
自立高さ	6.344m	
巻上最大揚程	37m	
速度	巻上	16.5/20.0m/min
	起伏	10.0/12.0m/min
	旋回	0.67/0.80rpm
	クライミング	8.3/10.0m/min
電動機	巻上	4.3kw 4P
	起伏	2.2kw 4P
	旋回	0.2kw 4P
	クライミング	巻上ウインチ利用
安全装置	過巻、過荷重、起伏、旋回、各制御装置 クライミング時落下防止装置	
操作方式	6点押ボタン式有線操作	
電源	50/60Hz 200/220V	

# 【日立 パワーリーチ】(C-5)

## ●寸法図

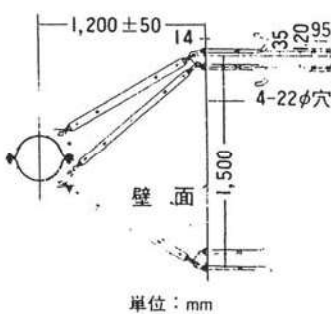
単位: mm



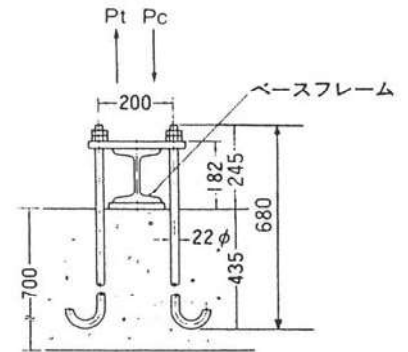
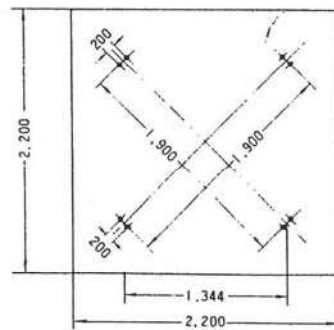
## ●仕様

クレーン能力(定格荷重×作業半径m)	1×5		
ブーム長さ (m)	7.5		
最大揚程 (m)	40(標準)		
自立高さ (m)	6		
電源 (V/Hz)	200/50	220/60	
巻上	フック速度 (m/min)	15 18	
	ロープ径 (mm) × 掛数	10Φ × 2	
	電動機出力 (kw)	3.7	4P
起伏	ロープ速度 (m/min)	10	12
	ロープ径 (mm) × 掛数	10Φ × 6	
	ブーム角度	32° ~ 80°	
	電動機出力 (kw)	1.2	4P
旋回	旋回範囲	360°	
	速度 (r.p.m)	0.6	0.72
	電動機出力 (kw)	0.2	4P
クライミング	速度 (m/min) (巻上ウインチ使用)	7.5	9
	ストローク (m)	3	
	ロープ径 (mm)	12.5Φ	
本体重(ベースフレーム除く) (t)	約1.5		
最大設置高さ (m)	33(標準)		
マスト長さ (m/1本)	3		
マスト重量 (kg/1本)	290		
安全装置	過負荷防止装置		
	過巻防止装置		
	起伏制限装置		
	本体落下防止装置		
	旋回制限装置		
付属品	操作用 キャブタイヤケーブル	2□ × 10C × 15m	
	作業梯子	2.7m × 2本	
非付属品	電源用	距離60m以内	
	キャブタイヤケーブル	14□ × 4C	
	基礎ボルト	22Φ × 715 × 8本	
	マスト支え用 取付ボルト(1箇所)	20Φ × 290mm × 4本	

## マストささえ取付け寸法



## 基礎施工例 (単位: mm)



- マストささえの上下取付け間隔は、3m～6mが最良です。
- マストささえの上下取付け間隔を3m～6mにした場合は、1ヶ所に最大圧縮力および最大引張力が、それぞれ3,270kgかかりますのでこの力に耐えられるよう施工してください。
- 1. ±50mmはターンバックルの調整代です。

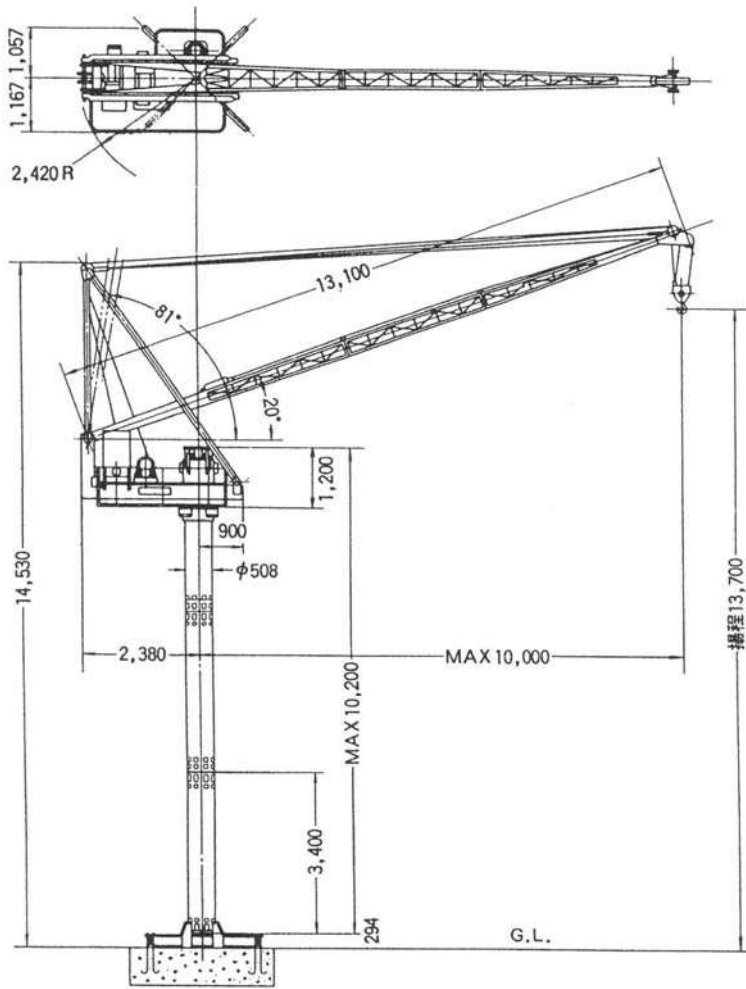
- マスト2本でマストささえなしの時は上図寸法(□2,200 × H700)の基礎が必要です。

- 基礎ボルト埋込みは、4ヶ所です。1ヶ所に最大圧縮力(Pc)3,500kg、最大引張力(Pt)2,300kgがかかりますから、基礎は、(Pc)、(Pt)に耐えられるよう施工してください。



# 【日立 パワーリーチ】(C-10)

## ●主要寸法図 単位:mm

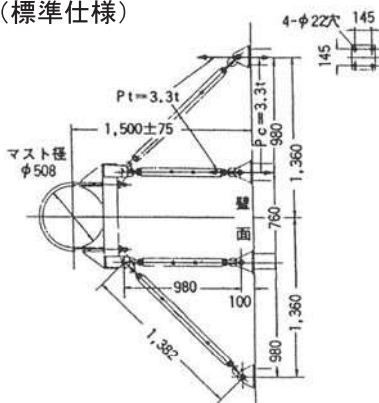


## ●仕様

メーカー	日立建機		
型式	C-10		
定格荷重	1ton		
作業半径	10m		
ブーム長さ	13.1m		
最大揚程	50m		
自立高さ	10.2m		
最大設置高さ	37.4m(最大揚程時)		
電源	200/220V 50Hz/60Hz		
電動機	巻上	50Hz	19.0m/min
		60Hz	22.8m/min
	起伏	50Hz	10m/min
		60Hz	12m/min
	旋回	50Hz	0.53rpm
		60Hz	0.62rpm
昇降	50Hz	6.3m/min	
	60Hz	7.6m/min	
電動機	巻上	7.5kw 6P	
	起伏	2.5kw 4P	
	旋回	0.4kw 4P	
ロープ径	巻上	10mm	
	起伏	10mm	
	クライミング	14mm	
ロープ掛数	巻上	2本	
	起伏	6本	
旋回範囲	360度		
昇降ストローク	3.4m		
本体重量	3,500kg(ベースフレーム除く)		
旋回フレーム重量	2,450kg(巻上・起伏ウインチ及び各ワイヤー含む)		
ポスト	径	508mm	
	長さ	3400mm	
	重量	750kg	
安全装置	本体落下防止装置		
	過負荷防止装置		
	過巻防止装置		
	旋回制限装置		
付属品	操作用 キャブタイヤケーブル	2□×10C×25m	
	作業梯子	2.9×3本	
非付属品	電源用 キャブタイヤケーブル	距離65m以内 14□×4C	
	基礎ボルト	24Φ×875mm×8本	
	マスト支え用 取付ボルト(1箇所)	20Φ×290mm×4本	

## ●マストささえ取付け寸法 単位:mm

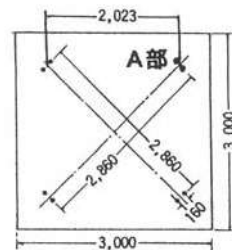
(標準仕様)



- マストささえはビルの階高に合わせて取付けられます。マストささえの上下取付け間隔は6~10.2mが最良です。
- マストささえ1ヶ所に最大圧縮力 (Pc)、最大引張力 (Pt) 3,300kgがかかります。この力に耐えられるよう、施工してください。

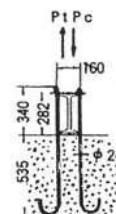
注1. ±75mmはターンバックルの調整代です。

## ●基礎図 単位:mm



●マスト3本でマストささえなしの時は上図寸法 (H800×3000□) の基礎が必要です。

A部

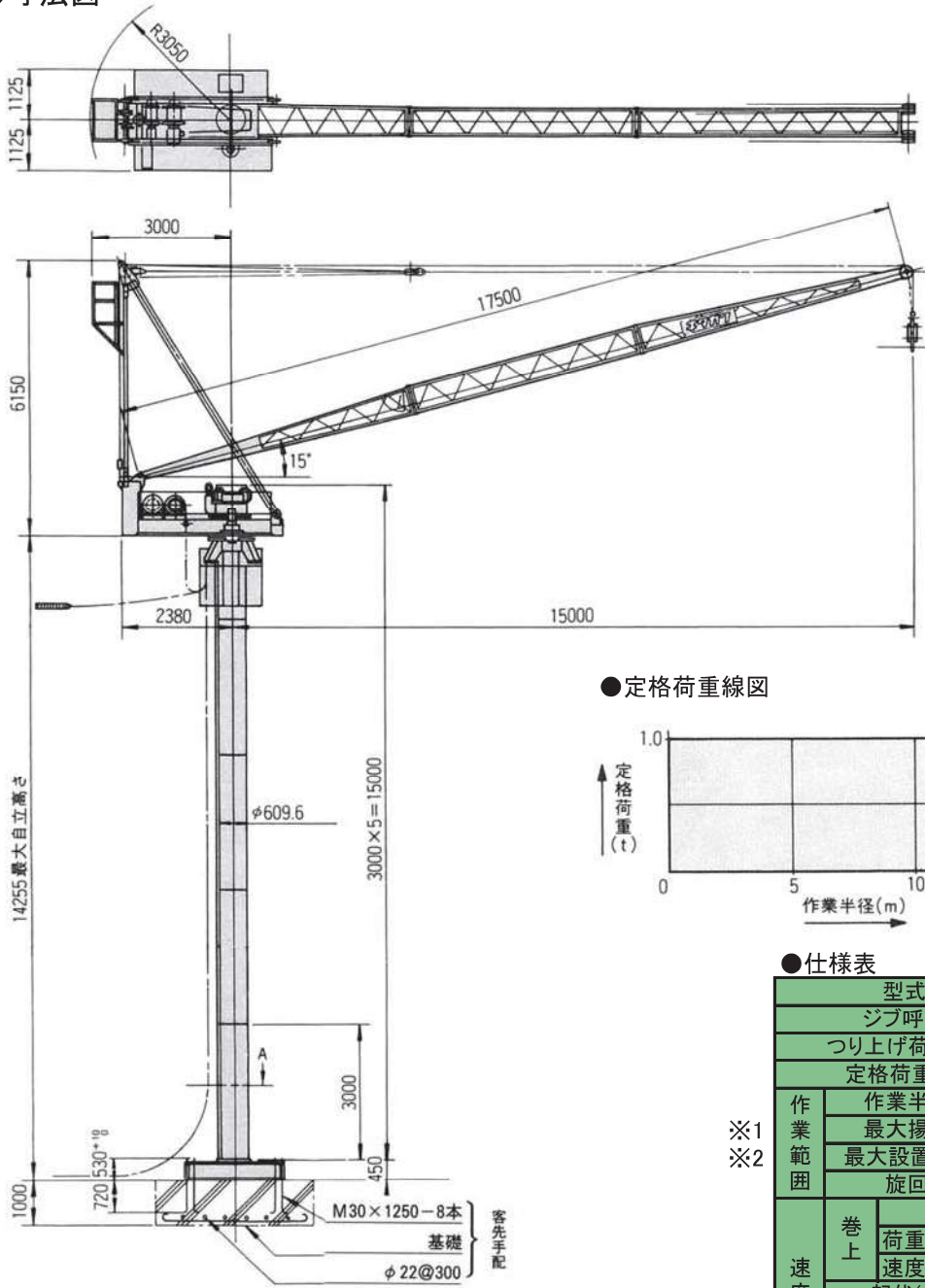


●基礎ボルトの埋込みは4カ所ですが、1カ所に最大圧縮力 (Pc) 6,400kg/最大引張力 (Pt) 3,300kgがかかりますから基礎は(Pc)(Pt)に耐えられるように施工してください。

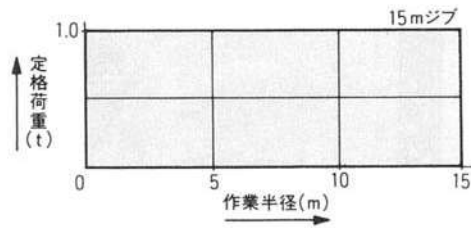


# 【クライミングクレーン】(JCL-015 II)

## ●寸法図



## ●定格荷重線図

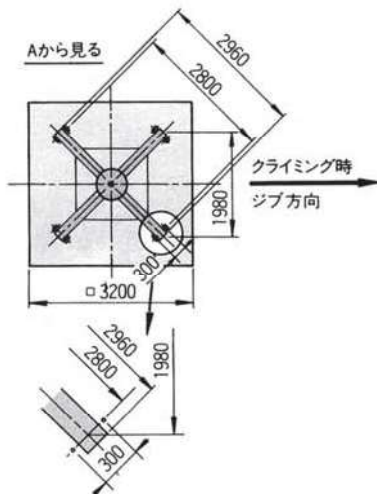


## ●仕様表

型式	JCL015 II		
ジブ呼び	15m		
つり上げ荷重(t)	1.06		
定格荷重(t)	1.0		
作業範囲	作業半径(m)	0~15	
	最大揚程(m)	63	
	最大設置高さ(m)	51	
旋回角度	360°		
速度	巻上	低速	高速
		荷重(t)	0~1.0
	速度(m/min)	9.5(11.5)	19(23)
	起伏(m/min)	8.4(10.1)	
	旋回(r.p.m.)	0.36(0.44)	
昇降(m/min)	2.6(3.1)		
電動機	巻上	4.5/2.2kw 4/8P 60%ED	
	起伏	2.2kw 4P 40%ED	
	旋回	0.75kw 4P	
	昇降	3kw 4P 30分定格	
電源	200V 50Hz (220V 60Hz)		
昇降	方式	電動チェーンブロック方式	
	ストローク	3.0m	
安全装置	過負荷防止装置 巻過防止装置 起伏制限装置 旋回制限装置 本体落下防止装置		
最大自立高さ	14.3m		
重量	本体	4.0t	
	マスト	0.75t	
	ベースフレーム	0.85t	
	最大分割重量	1.0t	
	総重量	8.7t	
クレーン群	II		
記事	( )内は60Hz時の速度を示す		

※1  
※2

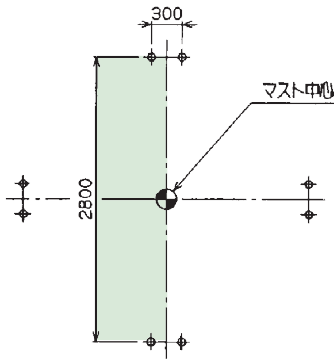
※3



## 基礎について

下図を参考に基礎、アンカーボルトを決定のこと  
強度が不足すると、クレーンの転倒につながります  
最大自立高さに対しては、下図の基礎が必要です。

(基礎下面の地耐力は、長期 10 t/m<sup>2</sup>以上、短期で 20 t/m<sup>2</sup>以上とする。)



アンカー配置図

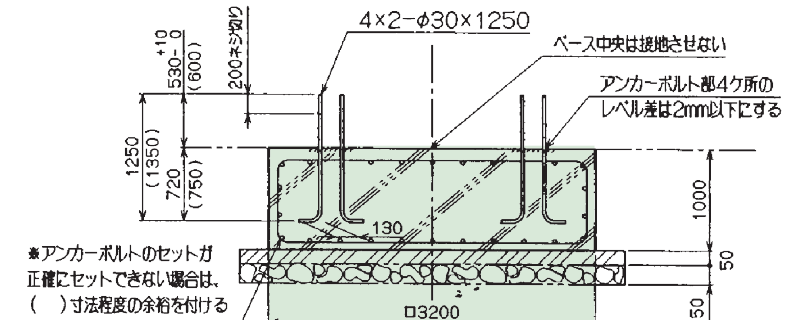
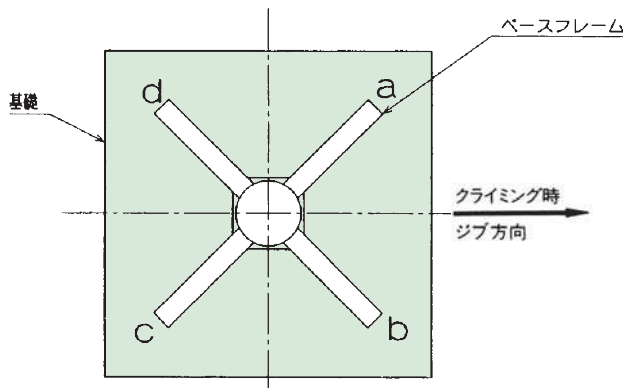


図 4-3. 最大自立高さに対する基礎寸法

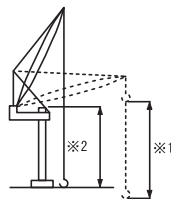
※アンカーボルトのセットが正確にセットできない場合は、( ) 寸法程度の余裕を付ける  
φ22、φ300 (ハカマ筋はこれに準ずる)

最大自立高さに対する基礎寸法



基礎とベースフレームの方向

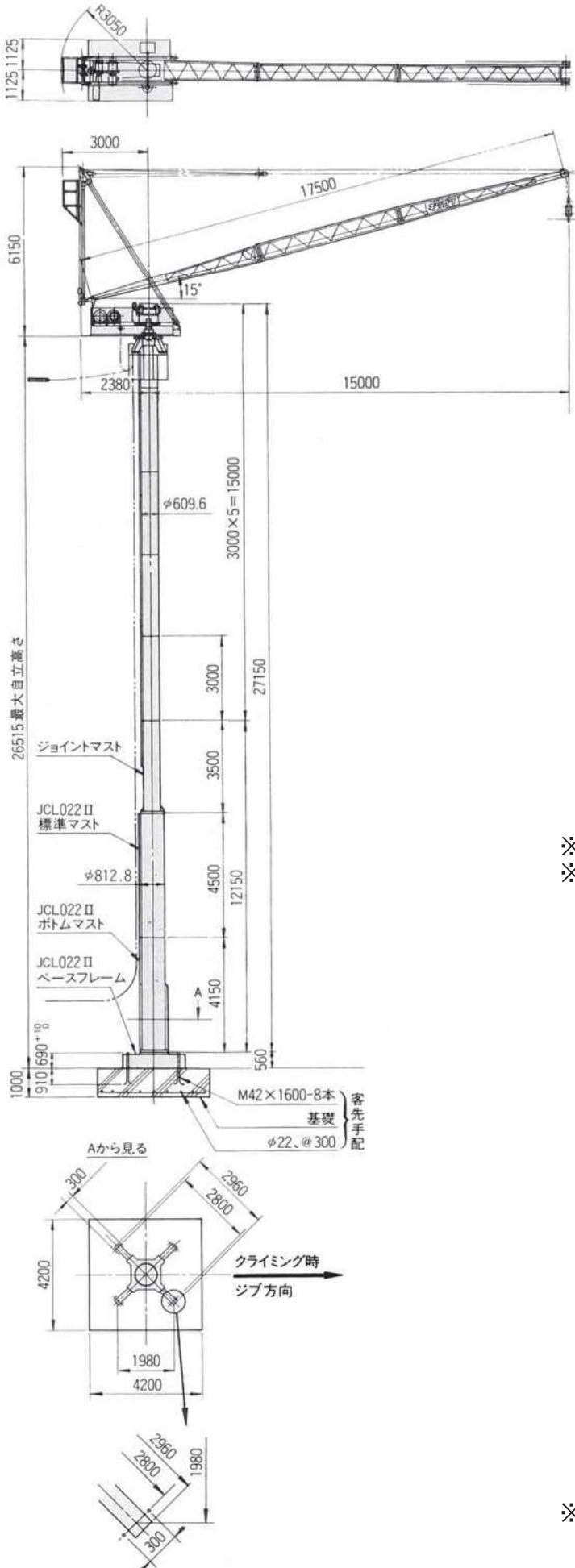
- ※1: 最大作業半径時の、フックブロック最大移動距離(垂直方向)  
(最大揚程を設置高さとした場合、ジブを起こした時、フックブロックが作業面まで届かなくなります)
- ※2: ジブ角度に関係なく、フックブロックが作業面まで届く最大高さ(マスト上面までの高さ)
- ※3: 本クレーンは『常時最大定格荷重』『連続使用』のクレーンではありません。



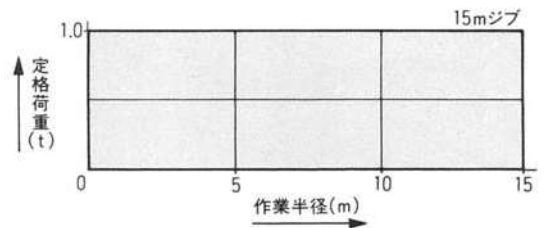
電源ケーブル	65 m マデ	14 × 4C
	100 m マデ	22 × 4C

# 【クライミングクレーン】(JCL-015 II 高自立)

## ●寸法図



## ●定格荷重線図



## ●仕様表

型式	JCL015 II 高自立		
ジブ呼び	15m		
つり上げ荷重(t)	1.06		
定格荷重(t)	1.0		
作業範囲	作業半径(m)	0~15	
	最大揚程(m)	63	
	最大設置高さ(m)	51	
速度	旋回角度	360°	
	巻上	低速	高速
		荷重(t)	0~1.0
	速度(m/min)	9.5(11.5)	19(23)
	起伏(m/min)	8.4(10.1)	
	旋回(r.p.m.)	0.36(0.44)	
昇降(m/min)	2.6(3.1)		
電動機	巻上	4.5/2.2kw 4/8P 60%ED	
	起伏	2.2kw 4P 40%ED	
	旋回	0.75kw 4P	
	昇降	3kw 4P 30分定格	
電源	200V 50Hz (220V 60Hz)		
昇降	方式	電動チェーンブロック方式	
	ストローク	3.0m	
安全装置	過負荷防止装置 巻過防止装置 起伏制限装置 旋回制限装置 本体落下防止装置		
最大自立高さ	26.5m		
重量	本体	4.0t	
	マスト	1.5t×2 0.9t×1 0.75t×5	
	ベースフレーム	1.3t	
	最大分割重量	1.0t(マスト除く)	
	総重量	13.3t	
クレーン群	II		
記事	( )内は60Hz時の速度を示す		

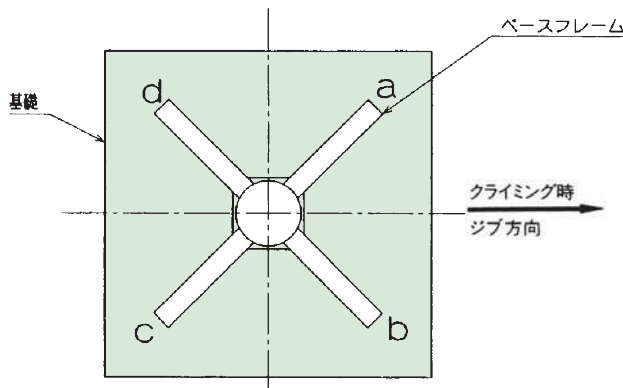
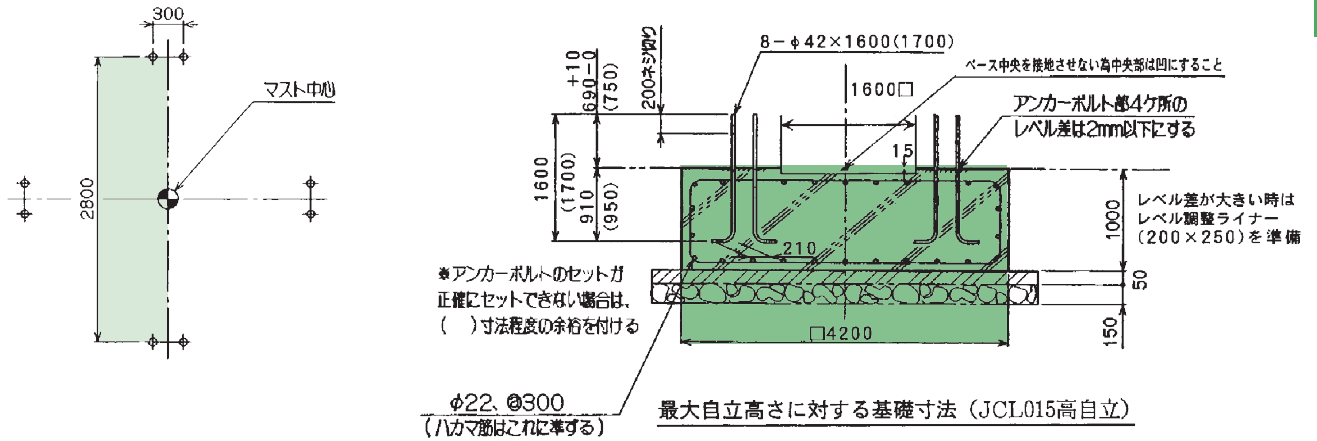
※1  
※2

※3

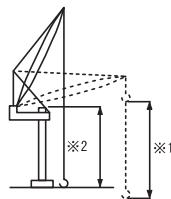
## 基礎について

最大自立高さに対しては、下図の基礎が必要です。

(基礎下面の地耐力は、長期で10 t/m<sup>2</sup>以上、短期で20 t/m<sup>2</sup>以上とする。)



- ※1: 最大作業半径時の、フックブロック最大移動距離(垂直方向)  
(最大揚程を設置高さとした場合、ジブを起こした時、フックブロックが作業面まで届かなくなります)
- ※2: ジブ角度に関係なく、フックブロックが作業面まで届く最大高さ(マスト上面までの高さ)
- ※3: 本クレーンは『常時最大定格荷重』『連続使用』のクレーンではありません。

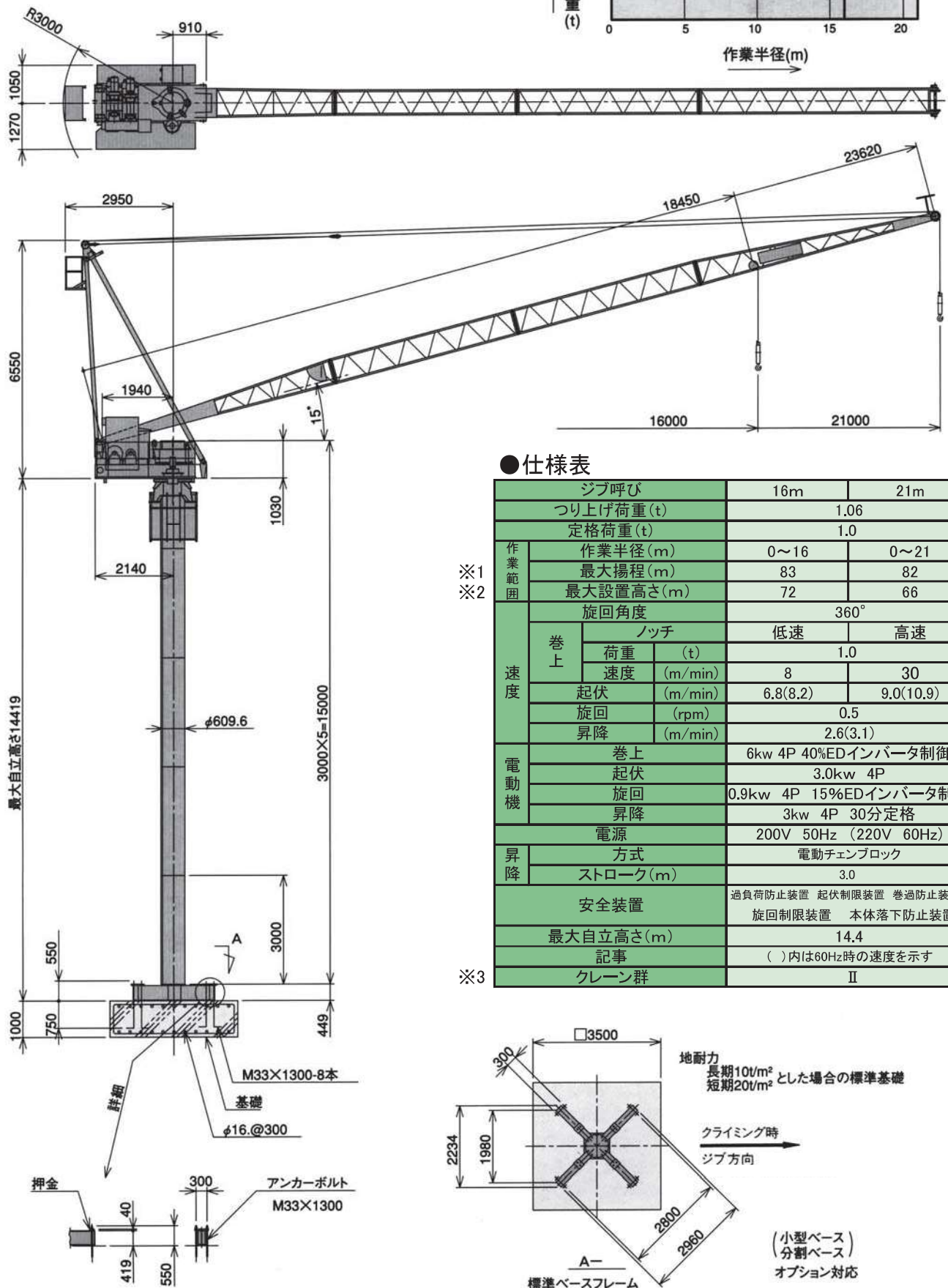


電源ケーブル	65 mマデ	14 × 4C
	100 mマデ	22 × 4C

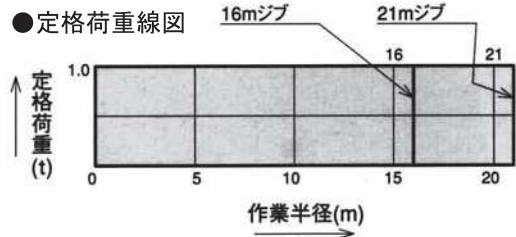


# 【クライミングクレーン】(JCL021C)

## ● 寸法図

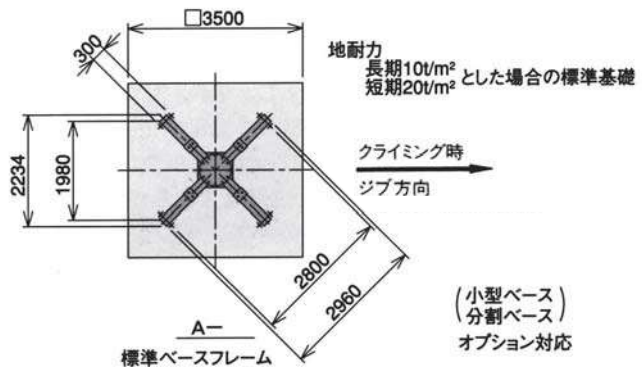


## ● 定格荷重線図



## ● 仕様表

ジブ呼び		16m	21m
つり上げ荷重(t)		1.06	
定格荷重(t)		1.0	
※1 ※2 作業範囲	作業半径(m)	0~16	0~21
	最大揚程(m)	83	82
	最大設置高さ(m)	72	66
旋回角度		360°	
速度	巻上	ノッチ	
		低速	高速
	荷重	(t)	
	速度	(m/min)	
	起伏	(m/min)	
昇降	旋回	(rpm)	
	昇降	(m/min)	
電動機	巻上	6kw 4P 40%EDインバータ制御	
	起伏	3.0kw 4P	
	旋回	0.9kw 4P 15%EDインバータ制御	
	昇降	3kw 4P 30分定格	
電源		200V 50Hz (220V 60Hz)	
昇降	方式	電動チェーンブロック	
	ストローク(m)	3.0	
安全装置		過負荷防止装置 起伏制限装置 巻上防止装置 旋回制限装置 本体落下防止装置	
最大自立高さ(m)		14.4	
記事		( )内は60Hz時の速度を示す	
※3	クレーン群	II	



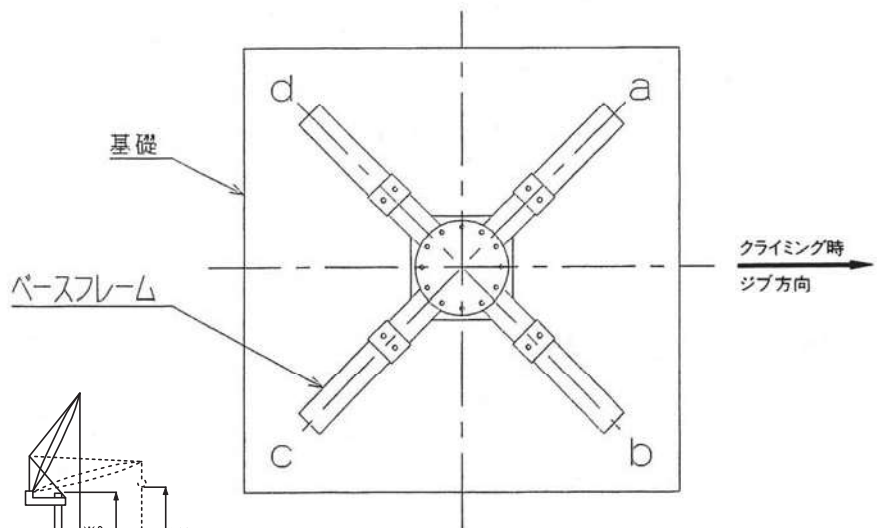
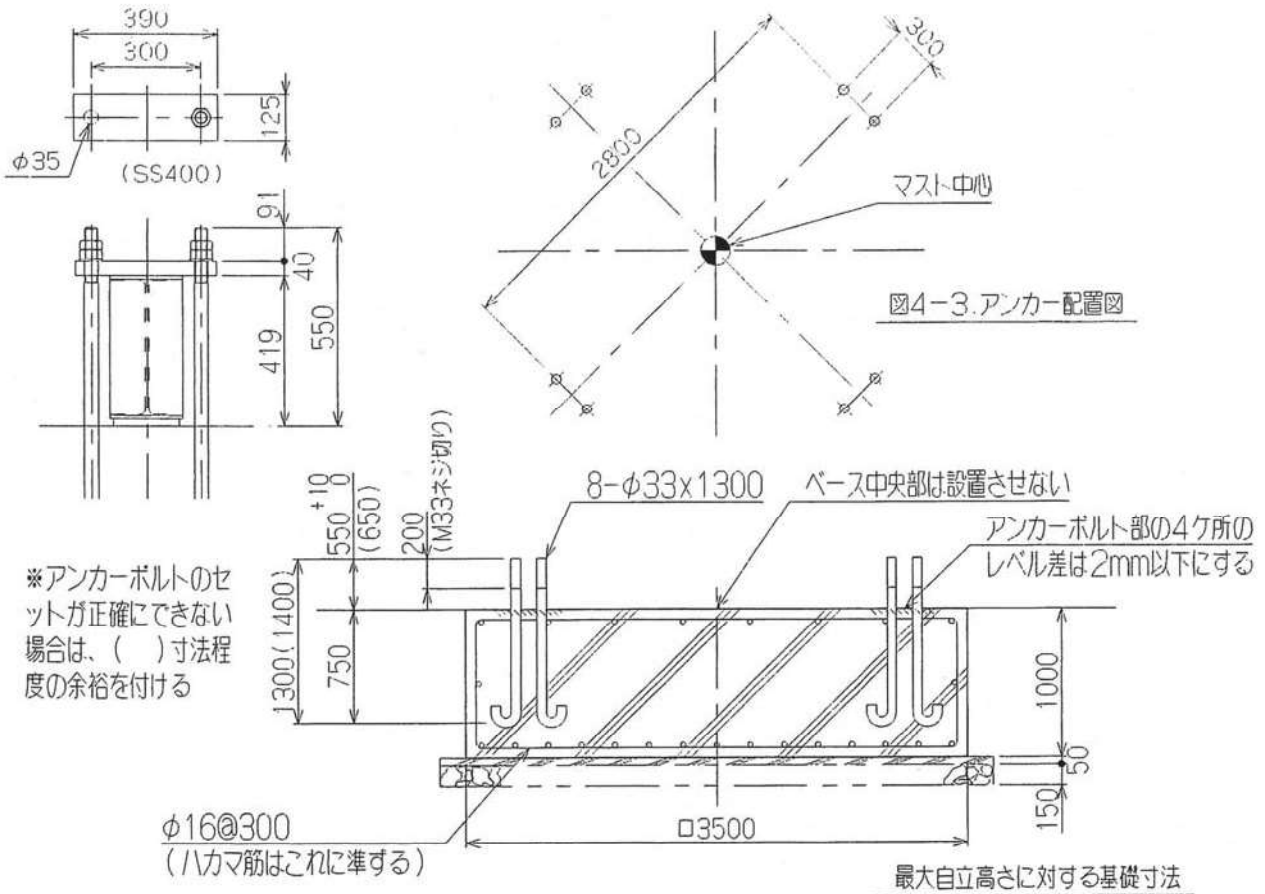
(小型ベース)  
分割ベース  
オプション対応



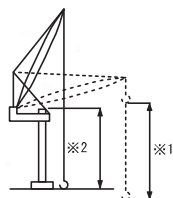
下図を参考に基礎、アンカーボルトを決定のこと  
 大きさ、強度が不足すると、クレーンの転倒につながります

最大自立高さに対しては、下図の基礎が必要です。

(基礎下面の地耐力は、長期100KN/以上、短期で200KN/以上とする)  
 ベースフレームはJCL015標準が兼用できますが、基礎ボルトはM30からM33  
 に変わります。よって押え金はM33用の下穴が明いたものを使用下さい。

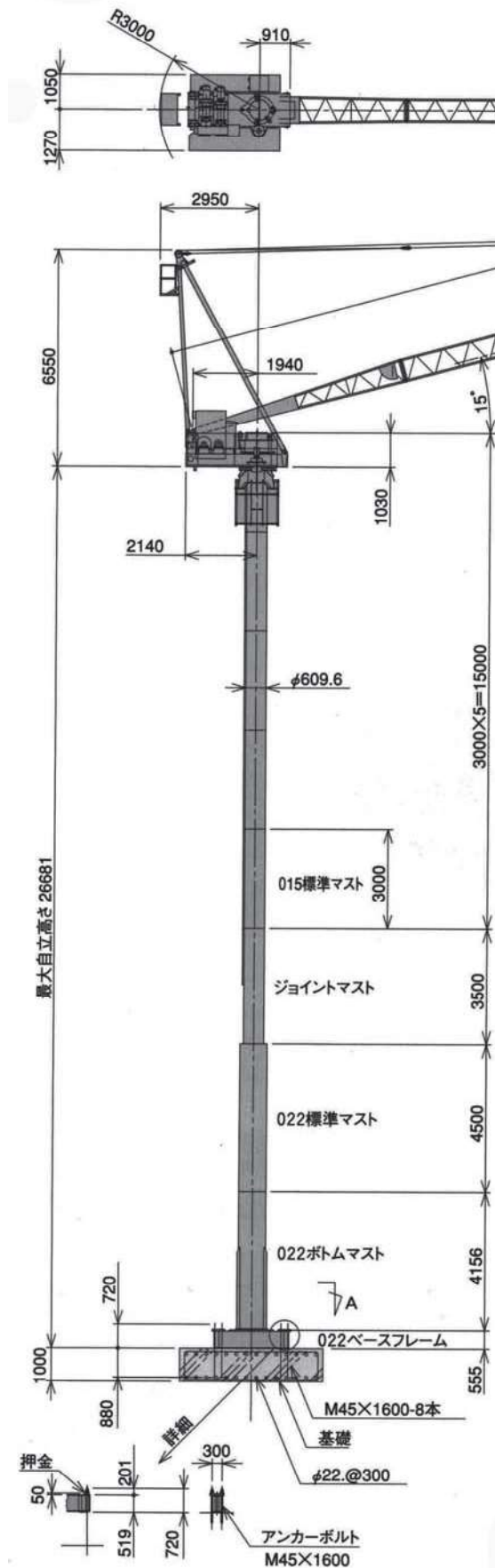


- ※1: 最大作業半径時の、フックブロック最大移動距離(垂直方向)  
 (最大揚程を設置高さとした場合、ジブを起こした時、フックブロックが作業面まで届かなくなります)
- ※2: ジブ角度に関係なく、フックブロックが作業面まで届く最大高さ(マスト上面までの高さ)
- ※3: 本クレーンは『常時最大定格荷重』『連続使用』のクレーンではありません。

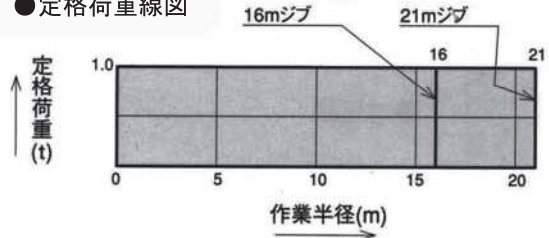


# 【クライミングクレーン】(JCL021C 高自立)

## ● 寸法図



## ● 定格荷重線図

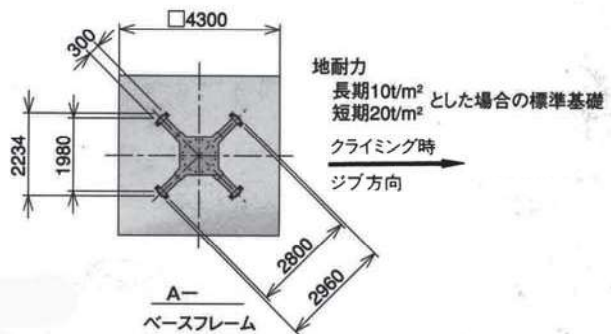


## ● 仕様表

ジブ呼び		16m	21m
つり上げ荷重(t)		1.06	
定格荷重(t)		1.0	
作業範囲	作業半径(m)	0~16	0~21
	最大揚程(m)	83	82
	最大設置高さ(m)	72	66
速度	巻上	ノッチ	
		低速	高速
	荷重	(t)	
	速度	(m/min)	
	起伏	(m/min)	
	旋回	(rpm)	
電動機	昇降	(m/min)	
	巻上	6kw 4P 40%EDインバータ制御	
	起伏	3.0kw 4P	
	旋回	0.9kw 4P 15%EDインバータ制御	
昇降	3kw 4P 30分定格		
	電源	200V 50Hz (220V 60Hz)	
昇降	方式	電動チェーンブロック	
	ストローク(m)	3.0	
安全装置		過負荷防止装置 起伏制限装置 巻過防止装置 旋回制限装置 本体落下防止装置	
最大自立高さ(m)		26.7	
記事		( )内は60Hz時の速度を示す	
クレーン群		II	

※1  
※2

※3

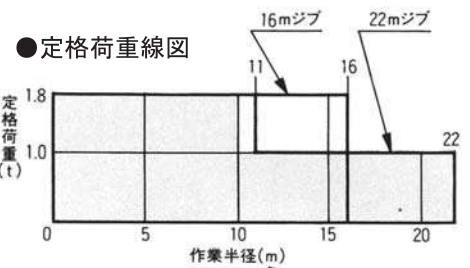
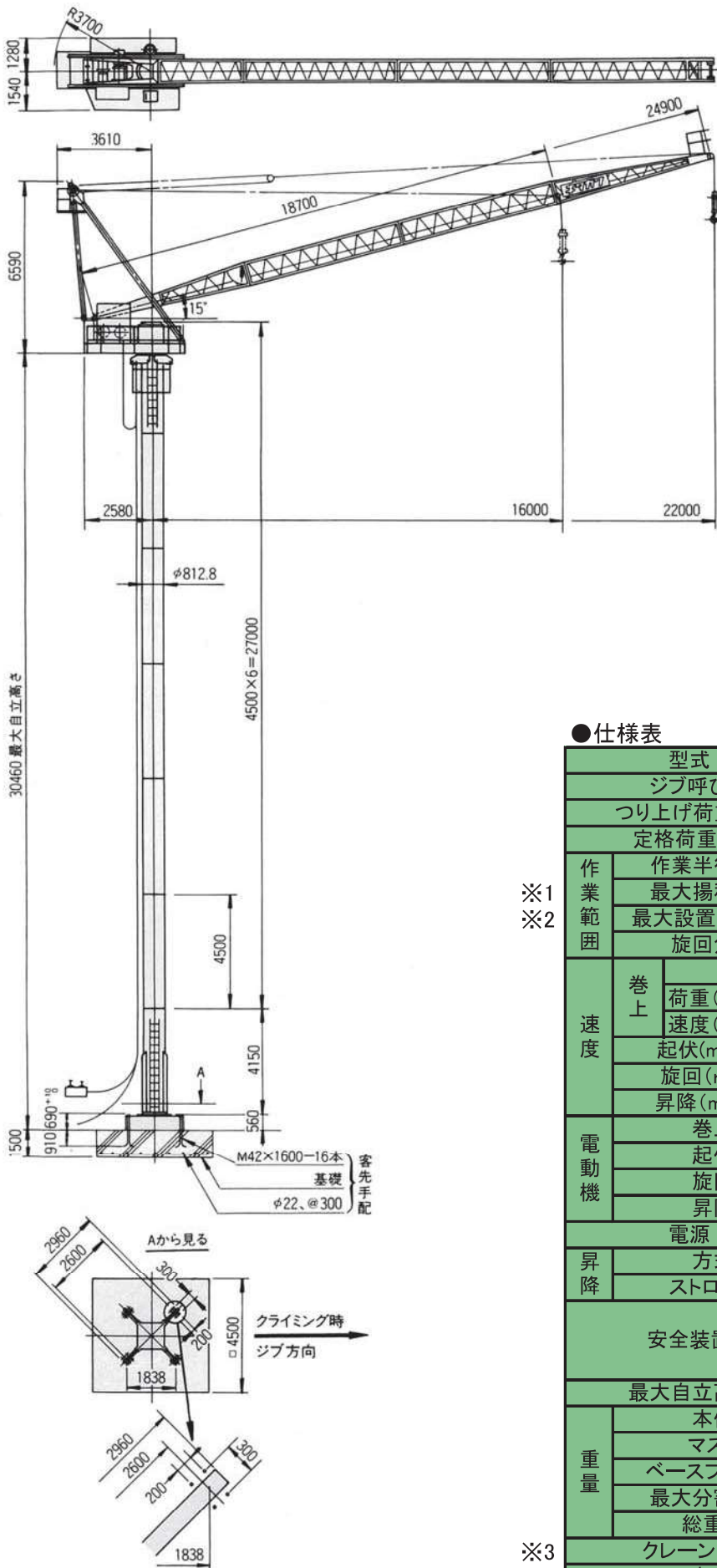






# 【クライミングクレーン】(JCL-022 II)

## ● 寸法図



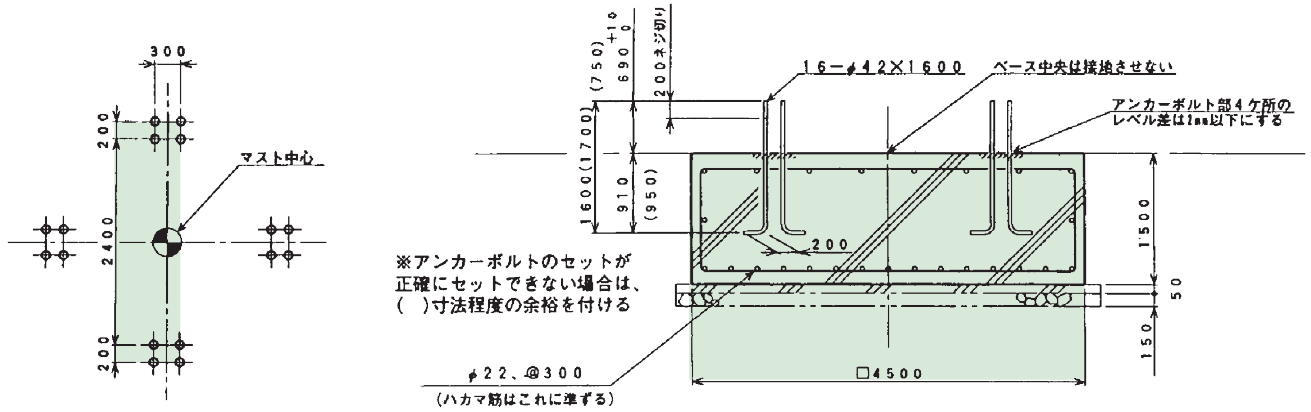
## ● 仕様表

型式		JCL022 II		
ジブ呼び		16m	22m	
つり上げ荷重 (t)		1.9		
定格荷重 (t)		1.8	1.8 ~ 1.8 ~ 1.0	
※1 ※2 作業 範囲	作業半径 (m)	0 ~ 16	0 ~ 11 ~ 12	
	最大揚程 (m)	100	90	
	最大設置高さ (m)	80	70	
旋回角度		360°		
速度	巻上	低速	中速	高速
		荷重 (t)	0 ~ 1.8	
	速度 (m/min)	2.9	12.1	24.1
	起伏 (m/min)	18.2 (21.9)		
	旋回 (r.p.m.)	0.55		
昇降 (m/min)	1.7 (2.0)			
電動機	巻上	11kw 4P 40%ED インバータ制御		
	起伏	7.5/2.5kw 4/12P 40%ED		
	旋回	1.5kw 4P インバータ制御		
	昇降	3kw 4P 30分定格		
電源		200V 50Hz (220V 60Hz)		
昇降	方式	電動チェンブロック方式		
	ストローク	4.5m		
安全装置		過負荷防止装置 巻過防止装置 起伏制限装置 旋回制限装置 本体落下防止装置		
最大自立高さ		30.5m		
重量	本体	6.7t		
	マスト	1.5t		
	ベースフレーム	1.3t		
	最大分割重量	1.4t (マスト除く)		
	総重量	19.2t		
※3 クレーン群		II		
記事		( )内は60Hz時の速度を示す		

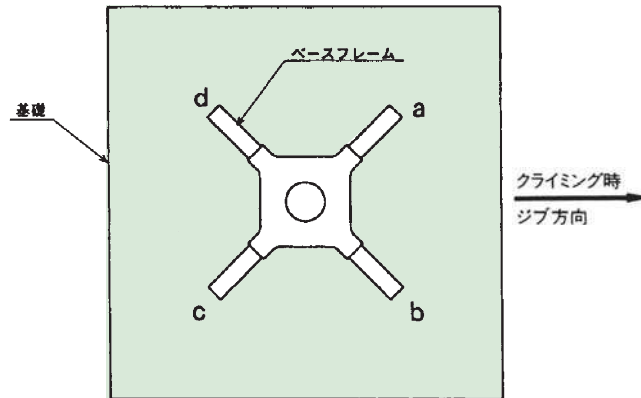
## 基礎について

最大自立高さに対しては、下図の基礎が必要です。

(基礎下面の地耐力は、長期10 t/m<sup>2</sup>以上、短期で20 t/m<sup>2</sup>以上とする。)

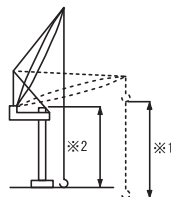


最大自立高さに対する基礎寸法



基礎とベースフレームの方向

- ※1: 最大作業半径時の、フックブロック最大移動距離(垂直方向)  
(最大揚程を設置高さとした場合、ジブを起こした時、フックブロックが作業面まで届かなくなります)
- ※2: ジブ角度に関係なく、フックブロックが作業面まで届く最大高さ(マスト上面までの高さ)
- ※3: 本クレーンは『常時最大定格荷重』『連続使用』のクレーンではありません。

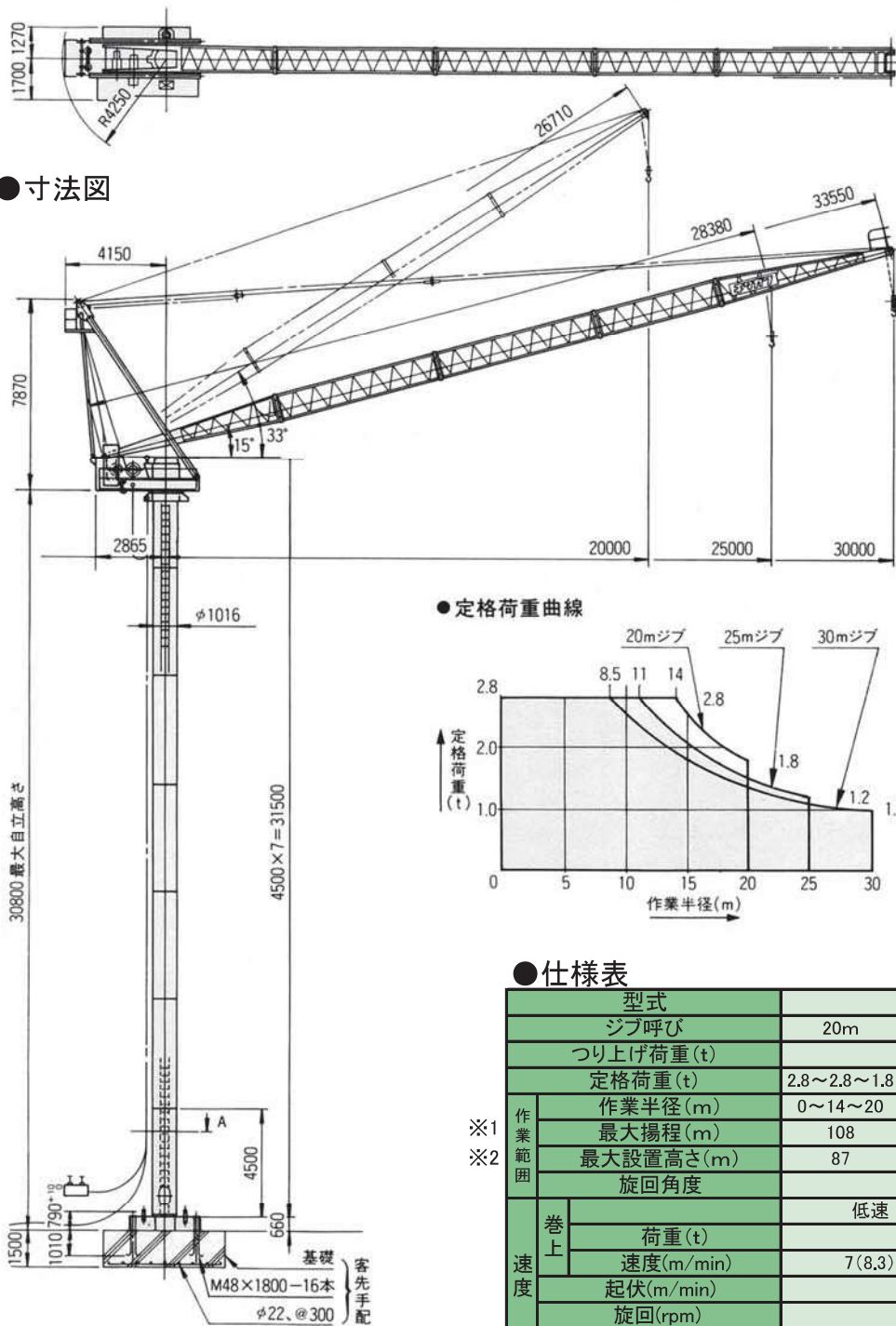


電源ケーブル	40 mマデ	22 × 4C
	70 mマデ	38 × 4C

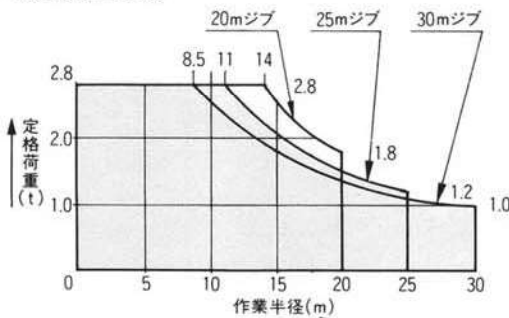


# 【クライミングクレーン】(JCL-030Ⅲ)

## ●寸法図



## ●定格荷重曲線



## ●仕様表

型式		JCL030Ⅲ		
ジブ呼び		20m	25m	30m
つり上げ荷重 (t)		2.92		
定格荷重 (t)		2.8~2.8~1.8	2.8~2.8~1.2	2.8~2.8~1.0
※1 ※2 作業範囲	作業半径 (m)	0~14~20	0~11~25	0~8.5~30
	最大揚程 (m)	108	105	100
	最大設置高さ (m)	87	84	73
旋回角度		360°		
速度	巻上	低速	高速	
		荷重 (t)	0~2.8	
	速度 (m/min)	7 (8.3)	28 (34)	
	起伏 (m/min)	10.3 (12.3)		
	旋回 (rpm)	0.57		
昇降 (m/min)	1.3 (1.6)			
電動機	巻上	20/5kw 4/16P 40%ED		
	起伏	5.5/2.75kw 4/8P 40%ED		
	旋回	2.2kw 4P 15%ED インバータ制御		
	昇降	3kw 4P 30分定格		
電源		200V 50Hz (220V 60Hz)		
昇降	方式	電動チェーンブロック方式		
	ストローク (m)	4.5m		
安全装置		モーメントリミッタ 巻過防止装置 起伏制限装置 旋回制限装置 本体落下防止装置		
最大自立高さ (m)		30.8m		
記事		( ) 内は60Hz時の速度を示す 操作は無線操縦で行う		
※3	クレーン群	Ⅱ		

## ●電源仕様

3φ3W AC220/200V ±10% 60/50Hz

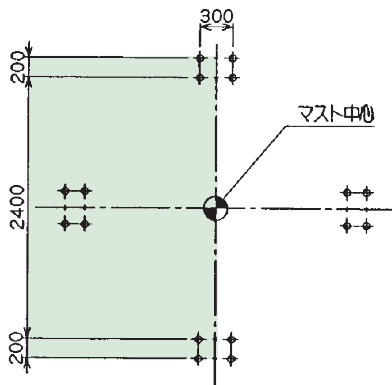
設備容量	電源容量
33.2kw	45KVA

※ 左記電源容量は、商用電源によるものです。  
発電機の場合は3倍程度の余裕を持たせて下さい。  
旋回にインバータ制御を採用していますので、必ず  
電圧変動を±10%以内に保って下さい。

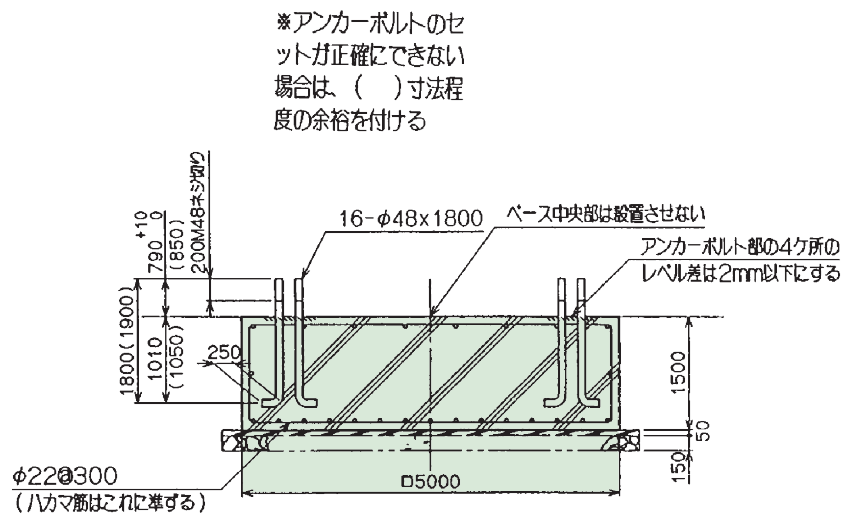
## 基礎について

下図を参考に基礎、アンカーボルトを決定のこ  
 大きさ、強度が不足すると、クレーンの転倒につながります  
 最大自立高さに対しては、下図の基礎が必要です。

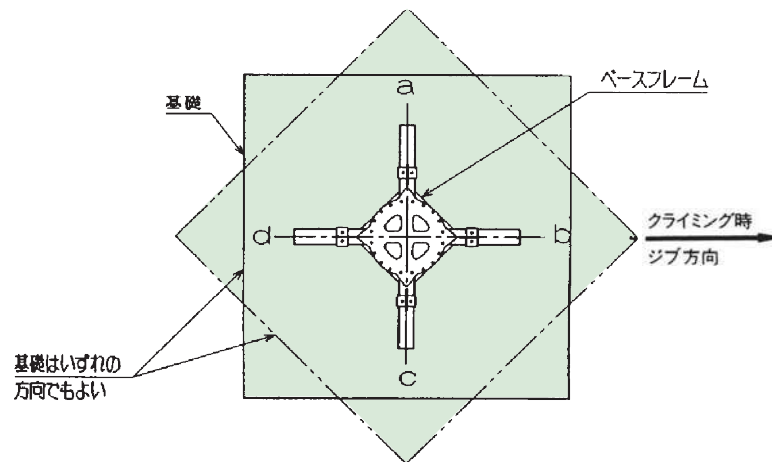
(基礎下面の地耐力は、長期 10 t/m<sup>2</sup>以上、短期で 20 t/m<sup>2</sup>以上とする。)



アンカー配置図

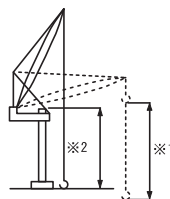


最大自立高さに対する基礎寸法



基礎とベースフレームの方向

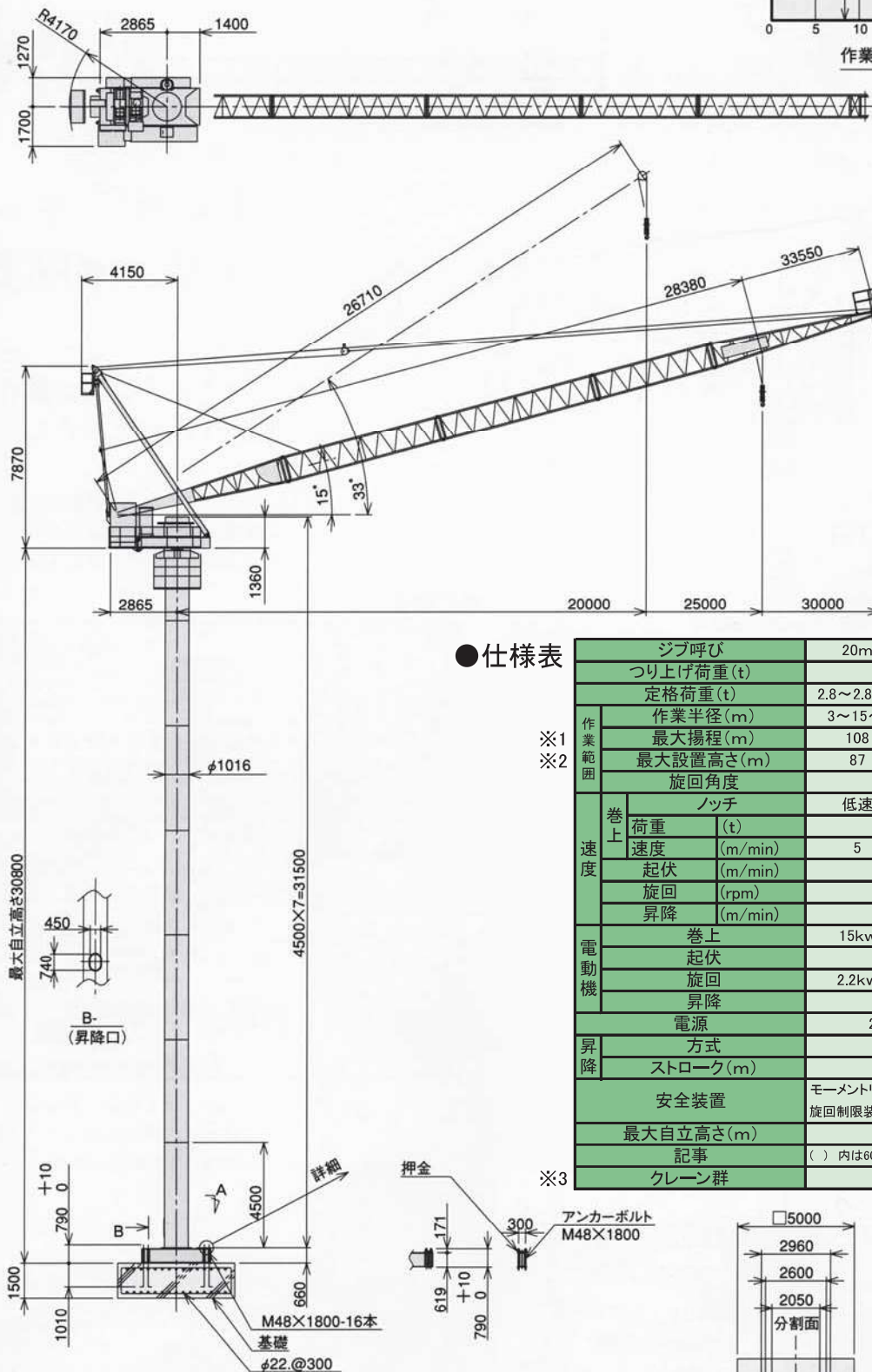
- ※1: 最大作業半径時の、フックブロック最大移動距離(垂直方向)  
 (最大揚程を設置高さとした場合、ジブを起こした時、フックブロックが作業面まで届かなくなります)
- ※2: ジブ角度に関係なく、フックブロックが作業面まで届く最大高さ  
 (マスト上面までの高さ)
- ※3: 本クレーンは『常時最大定格荷重』  
 『連続使用』のクレーンではありません。



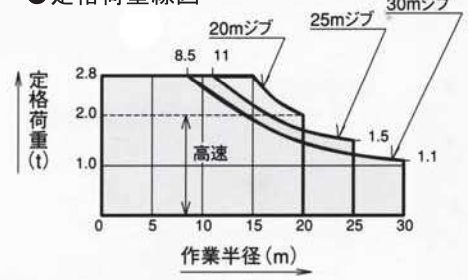
電源ケーブル	30 m マデ	38 × 4C
	45 m マデ	60 × 4C
	70 m マデ	100 × 4C

# 【クライミングクレーン】(JCL030Ⅳ)

## ●寸法図

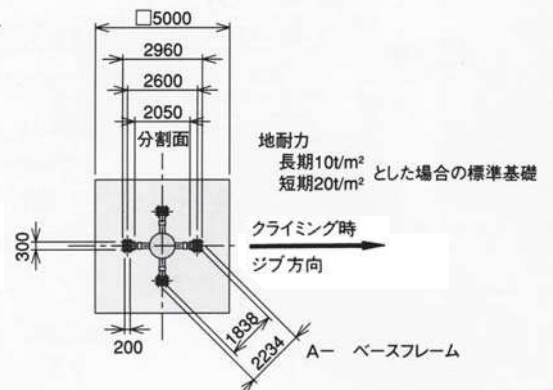
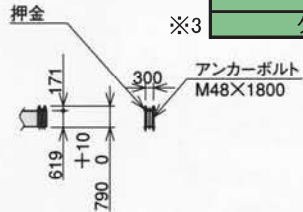


## ●定格荷重線図



## ●仕様表

ジブ呼び		20m	25m	30m	
つり上げ荷重 (t)		2.92			
定格荷重 (t)		2.8~2.8~2	2.8~2.8~1.5	2.8~2.8~1.1	
※1 ※2 作業範囲	作業半径 (m)	3~15~20	3~11~25	3~8.5~30	
	最大揚程 (m)	108	105	100	
	最大設置高さ (m)	87	84	73	
	旋回角度	360°			
速度	ノッチ				
	荷重 (t)	低速	中速	高速	
	速度 (m/min)	0~2.8			2
	起伏 (m/min)	5	14	26	35
	旋回 (rpm)	11.8 (14.1)			
電動機	昇降 (m/min)	0.57			
	巻上	15kw 4P 40%ED インバータ制御			2
	起伏	5.5/2.8kw 4/8P 40%ED			
昇降	旋回	2.2kw 4P 15%ED インバータ制御			
	昇降	4.6kw 4P 30分定格			
電源		200V 50Hz (220V 60Hz)			
方式		電動チェーンブロック			
ストローク (m)		4.5			
安全装置		モーメントリミッタ 巻過防止装置 起伏制限装置 旋回制限装置 本体落下防止装置			
最大自立高さ (m)		30.8			
記事		( ) 内は60Hz時の速度を示す 操作は無線操縦で行う			
クレーン群		Ⅱ			

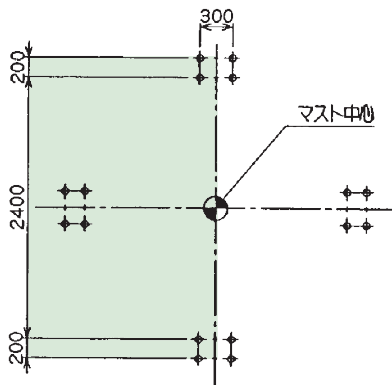




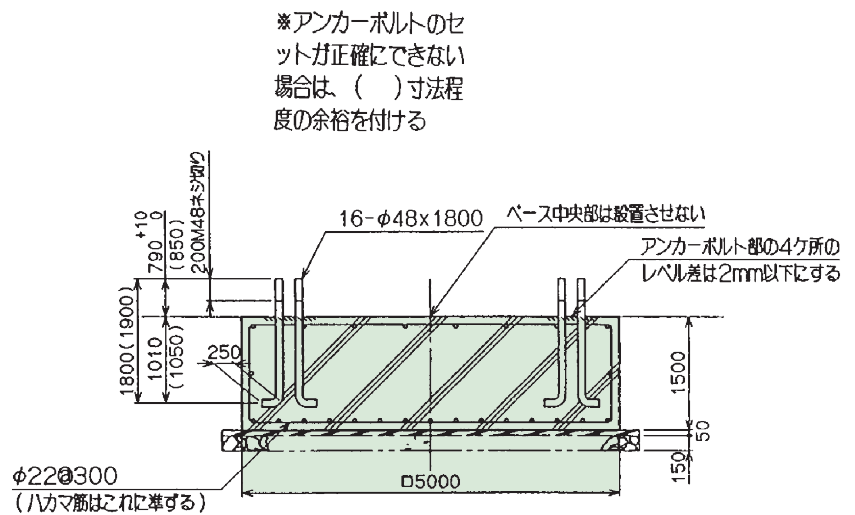
## 基礎について

下図を参考に基礎、アンカーボルトを決定のこと  
 大きさ、強度が不足すると、クレーンの転倒につながります  
 最大自立高さに対しては、下図の基礎が必要です。

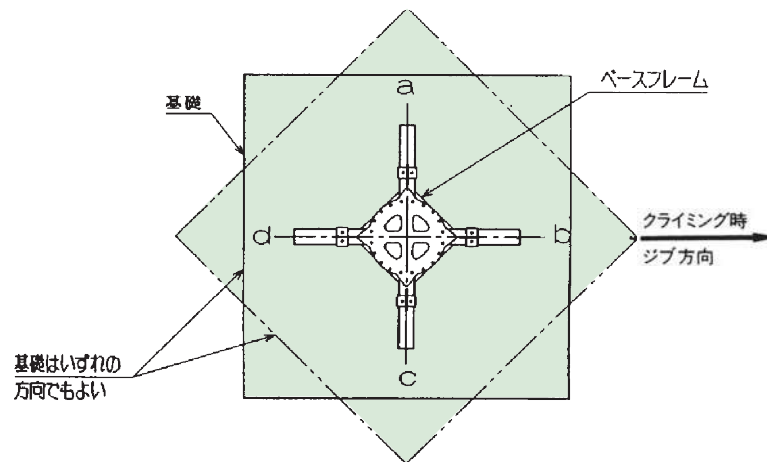
(基礎下面の地耐力は、長期 100KN/m<sup>2</sup>以上、短期で 200KN/m<sup>2</sup>以上とする。)



アンカー配置図

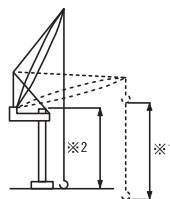


最大自立高さに対する基礎寸法



基礎とベースフレームの方向

- ※1: 最大作業半径時の、フックブロック最大移動距離(垂直方向)  
 (最大揚程を設置高さとした場合、ジブを起こした時、フックブロックが作業面まで届かなくなります)
- ※2: ジブ角度に関係なく、フックブロックが作業面まで届く最大高さ  
 (マスト上面までの高さ)
- ※3: 本クレーンは『常時最大定格荷重』  
 『連続使用』のクレーンではありません。



電源ケーブル	45mマデ	38 × 4C
	75mマデ	60 × 4C
	110mマデ	100 × 4C

# 【タワークレーン用無線遠隔制御装置】

注) 通常は有線をセット致しますが、無線ご希望の場合は別途リース料を頂きます。



■外観寸法図

## タワークレーン用無線遠隔制御装置

ハンディテレコン  
クレーン作業における省力化、  
操作性の向上を実現します。

### 使いやすさ優先の最新機能

- ケーブルレスにより現場での取扱いが容易であり断線、接触不良等トラブルによる作業ロスを減少します。
- 充電器はスピーディな急速型、予備指令機付きで、充電ロスがありません。

### 安全性は万全です

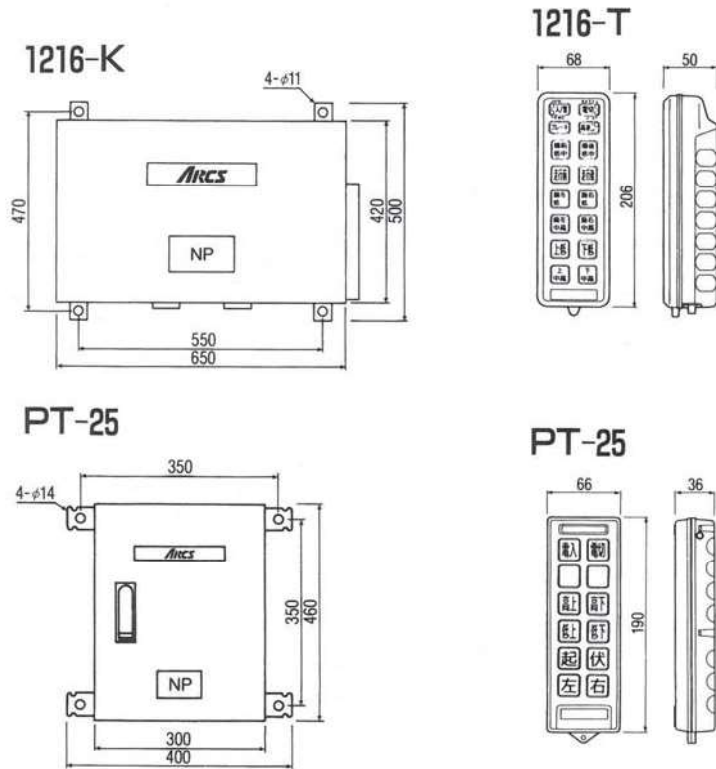
- 他の強電波の影響を受けた場合等は出力の停止、作業を中止させ誤動作、誤作動は全く心配ありません。
- スイッチ一つで「無線操作」と「有線操作」との切替が可能(K型)
- 混信ノイズに強く安全性に実績、信頼性のあるFM電波・誤作動防止回路を採用。

### 経済性を更に追求

- 一回充電で一日中(約8時間)使える省エネ型。
- 約500回充放電できるニカド電池内蔵。
- 軽くて小さい受令機、取付工事も容易。
- 免許を必要としない特定小電力型無線局です。(電波法施行規則第六条に準拠)

ハンディテレコンはエニーの25年余にわたる経験、技術を結集し、「安全第一」「ケーブルレスの高度な作業環境への対応」を基本姿勢に開発・完成いたしました。

※ 安全のため操作は吊荷の見える範囲でご使用ください。



■標準適応機種・仕様一覧表

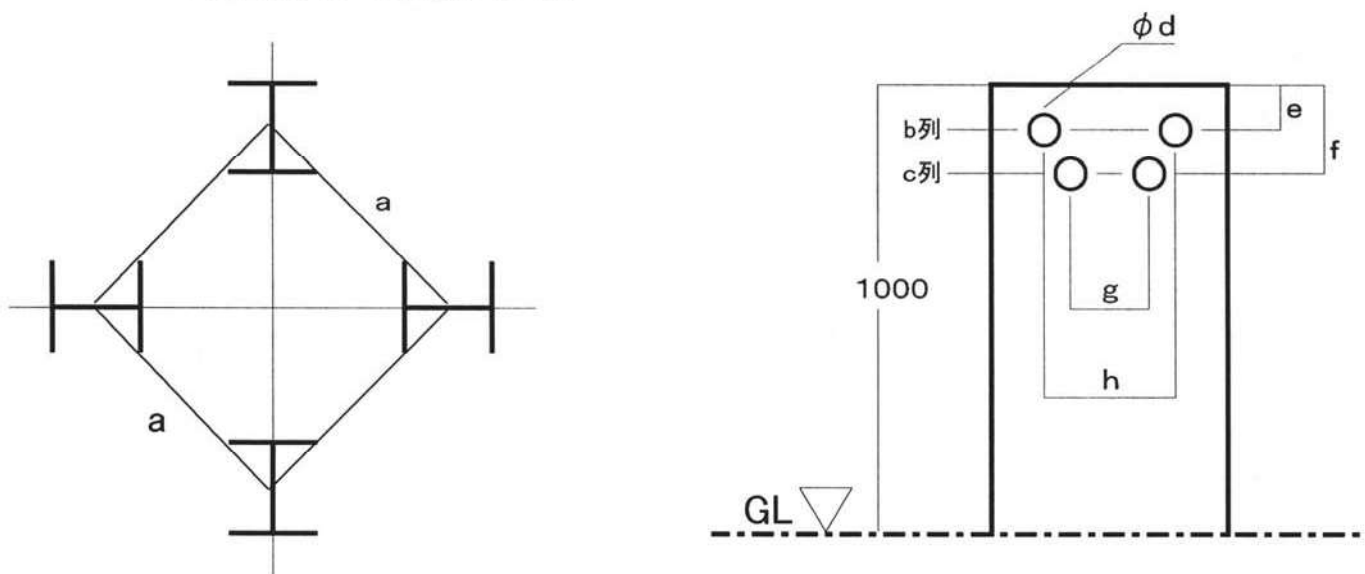
クレーン機種名	ビルマックレーン		
	JCL022 II JCL030 II JCL030 III	C-10 JCL015 II	
制御機器名	1216-K	PT-25	
無線機一般性能	無線周波数	429.2500~429.7375MHz 特定小電力無線局用チャンネル 40CH	
	送信出力	1mW	
	通達距離	約100m(見通し距離)	
	使用時間	約8時間	約12時間
	使用環境	-10℃~+50℃(結露しないこと)	
	構造	防雨型	
指令機受令機	電源	内蔵電池(7.2V)	内蔵電池(4.8V)
	寸法・重量	約68×206×50 約600g	約66×190×36 約410g
充電器	電源・消費電力	AC200V ±10% 50/60Hz 約50VA	
	寸法・重量	約650×420×135・約23kg	約300×400×120・約11kg
充電器	充電時間	約3.5時間	約2.5時間
	電源・消費電力	AC100V±10% 50/60Hz 約10VA	
寸法・重量	約80×43×120 約750g	約100×85×77 約600g	

※改良のため予告なく仕様を変更する事があります。

# 杭上ブラケット施工手順書

## 1. 手順及び注意

- ① H鋼杭を、規定寸法(下表:a寸法)に打つ。H鋼の向き確認  
 ※H鋼杭のウエブとベースフレームのウエブの左右のズレは、H鋼杭幅内にベースフレームが収まる範囲内とする。
- ② H鋼杭の首だしを、GL+1.5m程度取り、GL+1mになるよう4本の杭天端を切断してレベルを合せる。  
 ※レベル差で2mm以内に収めること。  
 ※H鋼杭が斜めに打設されてしまった場合は、杭頭を水平に切断して対応。  
 但し、②項目をクリアすること確認。
- ③ H鋼杭頭の規定位置(下表:e,f,g,h)にホルト穴をあける(個数一下表b列c列)  
 ※JIS1001に規定するところの、3(4)級穴径(下表:d)以内に収めること。(キリ穴・ガス穴問わず)
- ④ H鋼杭側面に、ブラケット材をボルト結合する。  
 ※取付ボルトは、所定のトルク(下表:i)で締めること。
- ⑤ H鋼杭頭に天板を載せ、ブラケット材とホルト結合する。  
 ※取付ボルトは、所定のトルク(下表:i)で締めること。
- ⑥ 天板の上に、ベースフレームを載せ、さらにその上に、押え金具を載せて、カンザシボルトにて固定する。  
 ※ベースフレーム上面のマスト取付面部分のレベル差が、1mm以下にならない場合は、レベル調整用ライナーを使用すること。



## 2. 寸法表

型式	H鋼サイズ(mm)	a(mm)	b列(個)	c列(個)	$\phi d$ (mm)	e(mm)	f(mm)	g(mm)	h(mm)	i(kg.m)
JCL-015 JCL-021	H300×300×10×15	2800	4	—	26	60	—	100	210	40
JCL015高自立 JCL021高自立	H350×350×12×19 H400×400×13×21	3300	2	2	38	120	220	140	220	160
JCL-022	H350×350×12×19 H400×400×13×21	3300	2	2	38	120	220	140	220	160
JCL-030	H350×350×12×19 H400×400×13×21	3300	2	2	38	120	220	140	220	160

## 作業開始前点検表

機械名 クライミングクレーン

メーカー形式及び能力	機械番号	機械保有会社	確認者印
( t × m )			

記入要領  : 異常なし × : 要修理・調整

点検事項	点検月/日						
1	クレーンの外観に異常はないか						
2	ワイヤーロープの損傷、磨耗、乱巻はないか、経路の状態はよいか						
3	各部給油の状態、ギヤーケースの油量はよいか、油漏れはないか						
4	各ブレーキの作動及び操作ハンドル、スイッチの働きは正常か						
5	各種モートル、ギヤーの異音、臭気はないか						
6	各種安全装置の作動は正常か						
7	各種計器の作動は正常か						
8							
9							
10							
点検者印またはサイン							

### 補修等の措置内容

照合 No.	補 修 箇 所	補 修 日 時	補 修 方 法



# クレーン安全運転ガイド

- クレーンは予め定められた運転者以外は運転してはなりません。
  - つり上げ荷重5トン未満のクレーンは、クレーン運転業務特別教育修了者
  - つり上げ荷重5トン以上のクレーンは、クレーン運転士免許所有者
- 運転者は、自己の修了証または免許証を携帯してください。また、つり上げ荷重3トン以上のクレーンの場合、クレーン検査証を確認してください。
- クレーンの性能、機構をよく理解し、無理な運転は絶対に避けてください。
- クレーンの各傾斜角について定格荷重をこえる荷重をかけてはなりません。
- 指定されたジブの傾斜角の範囲をこえて、ジブを起伏させてはなりません。
- 安全装置を働かないようにして、作業してはなりません。
- 荷をつったまま、運転位置から離れてはなりません。
- 運転中は、常に合図員の合図によってのみ行なってください。合図を「指差喚呼」で確かめ、ブザーまたは合図による応答の後、作業をはじめます。
- 前日からの引き継ぎ事項を確かめ、それぞれ必要な措置をとってください。
- クレーンを安全に運転できるかどうか点検してください。
  - ブレーキ、操作スイッチ、ケーブル、シーブの点検
  - 通路、点検デッキ等の油、ブリース、くず等の清掃
  - ワイヤロープとシーブの状態、ドラム巻取の状態、ワイヤロープの形状の確認
  - 受電電圧(10%以上の差があるときは作業をストップ)の確認
  - 安全装置、クラッチ、ブレーキ、警報装置等の作動チェック
  - ボルト、ナット、キーのゆるみ、脱落の有無の点検
  - ジブを旋回し、障害物の有無を確認
- 玉掛者、合図員との当日の連絡事項を確認してください。
- 緊急時に必要な器具、標示、信号等の有無および状態を確認してください。
- クレーンの起動、停止は急激に行わず、できるだけ滑らかに、クレーンに大きな衝撃や、つり荷に動揺を与える運転は絶対にしてはなりません。
- 非常時には、まず非常停止をかけてから対処してください。
- クレーン各部から異常な音、発熱、振動、臭気などを発見したときは、直ちに運転を中止し、責任者の指示を仰いでください。
- 風速10m/sec\*以上の風が吹いたときは運転を中止してください。
- 風速30m/sec以上の風が吹いた後または中震(震度4)以上の地震があった後に、作業を行うときは、予めクレーン各部の異常の有無を点検してください。
- 運転中停電したときは、操作スイッチまたはコントローラーを停止の位置にもどし、メイン・スイッチを切って送電を待ってください。
- つりワイヤーロープは地面をひきずったり、横たえたりしてはなりません。
- つり荷の横引き、斜めづり、作業中の雑談、わき見運転は絶対にしてはなりません。
- 作業半径内に人がいるときは、ジブを旋回させてはなりません。万一人がいるときは、警報ブザーを鳴らせて、立ち去らせてください。
- 運転者は、クレーンから離れるときは、全操作をロックしてください。
- 風速25m/sec以上の暴風時には旋回部をフリーにしておいてください。また、メイン・スイッチを切り、電気部品にはカバーをかけてください。
- ジブおよびフックを所定の位置に戻してください。
- 操作スイッチまたはコントローラーを停止の位置に戻し、メイン・スイッチを切ってください。
- クレーン各部の異常の有無をみまわり、気付いたことを責任者に知らせてください。
- 必要なところに給油してください。
- クレーン各部の作動状態、異常の有無・内容、修理・給油箇所、作業の種類・量その他引継ぎ事項を作業日誌に記入し、責任者に提出してください。

※強風注意報に準拠(10m/secは東京都陸上部です。地域により、10・15m/secの違いがありますのでご注意ください。)